

2017年度  
新潟大学教育学部 年報  
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

16

新潟大学教育学部

## 教育学部年報2017目次

<b>1. イベント・カレンダー</b> .....	1
1.1 教育学部	
1.2 附属学校	
<b>2. 特色ある教育活動</b> .....	4
2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要	
2.2 フレンドシップ実習	
2.3 入門教育実習	
2.4 佐渡実習	
2.5 研究教育実習	
2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業及び関連事業	
2.7 教育実習	
2.8 介護等体験	
2.9 インターンシップ ・企業等インターンシップ	
2.10 各課程の特色ある教育活動	
2.11 中・高校生等の大学見学	
<b>3. 就職支援</b> .....	31
3.1 教員志望学生向け特別講座	
3.2 教員採用就職対策支援プログラム	
3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス	
3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス	
3.5 臨時教員希望者への就職支援	
3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス	
3.7 教育学部就職情報ホームページ	
3.8 教職サポートルーム	
<b>4. 学部FD</b> .....	43

<b>5. 地域貢献</b> .....	42
5.1 新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」	
5.2 市民・教員等を対象とした公開講座	
5.3 教育委員会との連携事業	
5.4 委員等就任状況	
<b>6. 国際交流</b> .....	48
6.1 学部教育の国際化事業	
6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）	
<b>7. 附属施設の活動</b> .....	53
7.1 附属新潟小学校	
7.2 附属新潟中学校	
7.3 附属特別支援学校	
7.4 附属幼稚園	
7.5 附属長岡小学校	
7.6 附属長岡中学校	
<b>8. 外部資金</b> .....	72
8.1 科学研究費助成事業	
8.2 寄附金	
8.3 受託研究および受託事業	
8.4 共同研究	
<b>9. 教員・教育研究業績</b> .....	74

**[巻末資料]**

- 入学状況（学部）
- 入学状況（大学院）
- 就職状況
- 附属学校在学状況

# 1. イベントカレンダー

## 1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	3日	教育学部学年別ガイダンス（1年次，3年次）
	4日	教育学部学年別ガイダンス（1年次，2年次，4年次）
	5日	新潟大学入学式，教育学部新入生保護者懇談会，大学院教育学研究科新入生ガイダンス，介護等体験事前指導
	6日	第1学期開始
	8日	黎明祭
	25日	新潟県公立学校教員採用選考検査，新潟市立学校教員採用選考検査（願書受付期間）（～5/19），教採合格ガイダンス（4年次学生向け）
5月	29日	教員採用試験支援プログラム（理科実験（～6/30まで随時実施））
	30日	教員採用試験支援プログラム（教員採用検査合格者（卒業生）による模擬授業の見学）
	31日	教員採用試験支援プログラム（特別支援教育）
6月	5日	春期教育実習（～6/16）
	22日	教育学部後援会役員会
	23日	教員採用試験支援プログラム（小論文指導）
	24日	大学院教育学研究科（教職大学院）入試説明会
7月	1日	教育学部後援会理事会・総会
	3日	教員採用試験支援プログラム（模擬授業：全6回）（～7/31）
	8日	新潟市立学校教員採用選考検査（第1次検査）（～7/9）
	9日	新潟県公立学校教員採用選考検査（第1次検査）
	25日	第1学期定期試験（～8/3），教員採用試験支援プログラム（場面指導）
8月	1日	新潟市教職12年経験者研修（～12月）
	9日	新潟大学オープンキャンパス（～8/10）
	11日	夏期休業（～9/30）
	18日	新潟市立学校教員採用選考検査（第2次検査）（～8/20）
	19日	新潟県公立学校教員採用選考検査（第2次検査）（～8/22）
9月	2日	大学院教育学研究科教職大学院（第1次募集）入学試験
	4日	観察・参加実習（～9/8）
	11日	キャリア支援ガイダンス（2年次学生向け）
	21日	大学院教育学研究科教職大学院（第1次募集）入学試験 合格者発表
	20日	秋季卒業式
	29日	全学就職総合ガイダンス
10月	2日	秋季入学式，第2学期開始
	18日	教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次学生向け）
	21日	新潟大学WeeK 2017（～10/29）・新大祭（～10/22）
	23日	秋期教育実習（～11/3）
11月	9日	臨時採用教員希望者登録ガイダンス
	21日	教育実習運営協議会
	25日	推薦入学試験・養護教諭特別別科入学試験・大学院教育学研究科教職大学院（第2次募集）入学試験
	27日	公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー
12月	15日	教員採用試験支援プログラム（教員採用試験の最新動向と対策ガイダンス）
	20日	養護教諭特別別科入学試験・大学院教育学研究科教職大学院（第2次募集）入学試験 合格者発表
	27日	冬期休業（～1/6）
1月	9日	授業開始
	13日	大学入試センター試験（～1/14）
	16日	新潟市教育委員会と教育学部との教育懇談会
	18日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会
2月	1日	第2学期定期試験（～2/13）
	2日	新潟県教育委員会と教育学部との連携推進協議会
	5日	推薦入学試験 合格者発表
	25日	新潟大学入学試験（前期日程）（～2/26）
3月	8日	新潟大学入学試験（前期日程）合格者発表，教育学部後援会理事会
	11日	春期休業（～3/31）
	12日	新潟大学入学試験（後期日程）
	22日	新潟大学入学試験（後期日程）合格者発表
	23日	新潟大学卒業式，教育学部卒業祝賀会

## 1.2 附属学校

### 《 附属新潟小学校 》

### 《 附属新潟中学校 》

### 《 附属特別支援学校 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	10	1学期始業式・入学式	7	着任式, 1学期始業式, 入学式	10	新任式・第1学期始業式
	18	全国学力・学習状況調査(6年)	18	全国学力・学習状況調査(3年)	11	入学式
	20	第1回父母教師会実行委員会	25	第1回父母教師会実行委員会	19	高等部3年修学旅行(～21)
	21	1年生を迎える会	28	授業参観, 父母教師会総会, 教育振興会総会	21	中学部・遠足
	24	第1回避難訓練				
	28	全校参観日・父母教師会総会				
5			14	第44回ときわ体育祭	9	小学部・遠足
	18	第2回父母教師会実行委員会	18	ボランティア発足式	10	第1回避難訓練
	27	附属大運動会	25	生徒総会	27	運動会 入門教育実習①
6	1	北京師範大学実験小学訪問	2	1学期定期テスト(～5日)	5	春期教育実習(～16)
	5	春期教育実習(～16日)	5	春期教育実習(～16日)		高等部職場実習(～7/7)
	9	1～4年登山(弥彦山)	9	すなやま完歩大会	19	学校説明会①
	15	第2回避難訓練	14	市内陸上・庭球大会(～15日)	26	学校説明会②
	21	全校参観日	19	新潟市体育大会(～20日)		
7			5	新潟地区大会(～6日)	6	中学部校内宿泊学習(～7)
			12	午前授業・個別懇談会(～19日)	12	高等部校内宿泊学習(～14)
			21	1学期終業式	24	第1学期終業式
	20	1学期終業式	22	県総合体育大会(～23日)		
26	市陸上記録会					
8	1	新潟市水泳記録会	1	北信越総体(長野～4日)	18	全校登校日 入門教育実習②
	8	県内九附合同部会	8	県内九附合同部会	19	高登校日
	28	2学期始業式	25	2学期始業式		
	30	佐渡自然教室(5年)(～6月1日)				
9	4	2年次観察参加実習(～8日)	2	附属中創立70周年式典	1	第2学期始業式
	12	立山自然教室(6年)(～15日)	4	2年次観察実習(～8日)	8	第2回避難訓練
	21	第3回父母教師会実行委員会	16	演劇発表会	12	高特体連スポーツ大会
	22	全校参観日	29	市総体(陸上)	14	中学部3年修学旅行(～15)
	29	中間検討会			25	高等部職場実習(～10/27)
10			5	市総体(西地区～6日)	16	入学者選考検査
	14	附属ミュージアム	23	教育研究発表会	20	入学許可者公示
	23	秋期教育実習(～11月2日)	23	秋期教育実習(～11/2)	23	秋期教育実習(～11/2)
25	クロスカントリー-in母の森					
11	6	入学希望説明会	5	学校説明会(午後)	15	小・中学部なかよし運動会
	16	第3回附属三校合同避難訓練	10	2学期定期テスト(～13日)		
	18	附属ミュージックステーション	16	第3回附属三校合同避難訓練		
			18	第38回音楽のつどい		
12	2	新1年生入学選考①	5	生徒会立会演説会	1	特別支援教育研究会
	5	新1年生入学選考②	9	新1年生入学選考(～10日)	13	高等部宿泊学習(～15)
	21	2学期終業式	22	2学期終業式	22	第2学期終業式
1	10	3学期始業式	9	3学期始業式	9	第3学期始業式
			24	3年進路懇談会(～26日)	12	高学部スキー教室
					15	新入生保護者説明会
					27	すなやま祭
2	8	初等教育研究会①	5	3年3学期定期テスト(～6日)	2	小学部そり教室
	9	初等教育研究会②	8	1年「東京班別学習」(～9日)	5	高等部体験入学
	15	第4回父母教師会実行委員会	13	公立特色化選抜日	6	中学部体験入学
	20	新1年生保護者入学説明会	19	1,2年3学期定期テスト(～20日)	7	小学部体験入学
			27	同窓会入会式	9	中学部スキー・そり教室
3	15	6年生を送る会	2	第70回卒業証書授与式	1	小学部6送会, 中・高等部3送会
	22	3学期終業式	6	2年「台湾の『旅』」(～9日)	16	卒業式
	23	第71回卒業証書授与式	7	公立入試学力検査(～8日)	19	第3学期終業式
	27	離任式	19	3学期終業式	26	離任式

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

月	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	7	着任式, 1学期始業式, 入学式	6	着任式, 始業式	8	1学期始業式
	17	全校仲良しの会	7	入学式, 1年PTA入会式	10	入園式
	19	学習参観日	11	学友会入会式	24	こんにちはの会
5			13	2・3年PTA, 学校運営説明会		
	12	研究会事前打合せ	21	オープンスクール, PTA・後援会総会		
6			9	クラスマッチ(1), 学友会計画総会	10	交通安全教室
	1	教育研究協議会・オープンスクール			14	なかよしタイム
	2	北京師範大学南奥実験学校との研修交流	1	教育研究協議会	1	校園研究協議会
	5	春期教育実習(～16日)	5	春期教育実習(～16日)	6	春期教育実習(～16)
	19	学習参観日(心の教育)	6	郡市各種大会(～7日)	20	プール開き
	20	初任者研修①	21	校園合同避難訓練	24	家族参加日(土曜参観)
	22	4年サマースクール(～24日)				
7	22	1～3年わくわく発見遠足				
	29	栖吉川フェスティバル				
	3	6年三者面談(～5日)	1	地区懇談会	4	七夕飾り付け
	14	校園合同避難訓練	4	中越地区各種大会(～5日)	14	1学期終業式
	15	オープンスクール・学校説明会・学習参観日	7	オープンスクール・進路指導説明会		
	24	児童引き渡し訓練	13	親子で聞く講演会(サイエンスナビゲーター桜井進氏)		
8	27	家庭訪問(～31日)	21	成果を語る会		
			22	中越地区吹奏楽コンクール(～23日)		
			22	県総合体育大会(～23日)		
			25	保護者面談(～28日)		
	9	親善水泳大会(4～6年)	1	北信越大会(～4日)	24	2学期始業式
9	24	5・6年赤城自然教室(～25日)	5	県吹奏楽コンクール		
			8	県内附属合同研修部会(長岡)		
			17	全国中学校体育大会(～25日)		
			22	抱負を語る会, 授業開始		
10			26	学校説明会, PTA校園整備活動		
	2	校園大運動会(校園合同)	2	校園大運動会	2	校園合同運動会
	4	観察参加実習(～8日)	4	観察・参加実習(～8日)	4	観察参加実習(～8日)
	13	避難訓練②			12	なかよしタイム
	14	市親善陸上大会(6年)			14	交通安全教室
	19	初任者研修②			22	園内探検
11	27	マラソン記録会			26	なかよしタイム④
	5	1学期終業式	4	郡市新人各種大会(～5日)	3	探検遠足
	10	2学期始業式	18	音楽発表会, 創立70周年記念式典	12	入園選考日(～13日)
	16	新・転(編)入学選考検査願書受付開始	20	中間検討会	17	入門実習
	23	秋期教育実習(～11/2)	23	秋期教育実習(～11/3)	23	秋期教育実習(～11月2日)
12					27	なかよしタイム
	6	市親善音楽会(6年)	10	親子で聞く講演会(戦場カメラマン渡辺陽一氏)		
	17	新・転(編)入学選考検査願書受付締切	13	オープンスクール・進路説明会		
	18	校内音楽会	16	生徒会役員選挙		
1	20	個別懇談(～29日)	28	クラスマッチ(2), 学友会総会		
			30	3年三者面談(～12/4)		
	2	新・転(編)入学選考検査	9	入学者選考検査(結果発表16日)	17	作品展
2	5	新・転(編)入学選考検査結果発表	22	成果を語る会	29	避難訓練
	21	仲良しフェスティバル				
	10	書き初め大会	9	抱負を語る会	10	3学期始業式
	12	校園合同避難訓練②	12	校園合同避難訓練	11	かるた大会
3	15	学習参観日	23	3年三者面談(～26日)	12	合同避難訓練
	23	5・6年スノースクール(～24日)	25	1年研修旅行(東京)(～26日)	24	そり遠足
	1	新・転(編)入学選考二次募集検査	3	新入生・保護者説明会	2	豆まき会
	2	3・4年スキー教室	6	2年修学旅行(沖縄)(～9日)	9	一日入園
	5	新・転(編)入学選考二次募集検査結果発表	13	公立高校特色化選抜検査		
	13	一日入学	14	3年生を送る会		
	21	学習参観(1～3年)				
3	22	学習参観(4・5年)				
	23	1・2年そり遠足				
	19	2学期終業式	5	卒業証書授与式	2	ありがとうの会(5歳児への感謝の会)
	20	118回卒業証書授与式	7	公立高校一般学力検査	14	3学期終業式
		16	終業式	15	第114回保育証書授与式	
		26	離任式			

## 2. 特色ある教育活動

### 2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要（2017年度）

No	名称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内容	目標
1	フレンドシップ実習	1, 2 年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1)地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2)教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1)教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2)教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1)学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2)参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3)その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1)学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2)専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	佐渡実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成25年度	(1)佐渡市立両津吉井小学校、河崎小学校及び同学区の久知八幡宮例祭の中で、子どもの支援にあたり、地域の人たちとの協働して祭りに参加する。 (2)参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3)その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1)学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2)専門教育を受けるための準備段階を形成する。 (3)地域と密着した学校教育の在り方を理解し、地域住民との交流を深める。
4	観察・参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1)附属学校における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2)参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3)3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1)学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2)3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
5	教育実習 (主専攻、副専攻)	3, 4 年次生	教育実習委員会		(1)教育課程の理解、(2)各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3)学級経営の理解、(4)生徒指導の理解、(5)幼児・児童・生徒の理解、(6)実践研究の方法の理解、(7)その他。	(1)教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2)実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3)研究課題を発見させ追求させる。
6	研究教育実習	4年次生、 大学院生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1)単元の指導力、研究力量を形成する。 (2)教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
7	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3, 4 年次生、 大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
8	見附市教育委員会「新潟大学連携学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
10	燕市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成24年度	燕市内の小中学校において、教育活動の支援を行う。	

実施時期、 期間	関係機関	募集 定員	参加学生数	対応する授業科目	その他
通年	新潟市教育委員会・地域と学校ふれあい推進課、学童保育施設、公立の学校園等	50名	36名	「教育実践体験研究Ⅰ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)平成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践体験研究」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2)平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成17年度より、通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校および公立、市立の学校園	100名	120名	「教育実践体験研究Ⅱ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2)平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授業科目を新設。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。
通年(実習は9月集中)	佐渡市立河崎小学校、佐渡市立両津吉井小学校、NPO法人佐渡芸能伝承機構	10名	10名	「教育実践体験研究Ⅳ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)	(1)平成25年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環として実施。 (2)新潟県の地域特性を考慮し、離島における実習として実施。
9月、5日間	附属学校(4校)		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計325名	「教育実習事前・事後指導」(2単位、学校教員養成課程においては必修の一環を構成)	(1)教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長する形で、実施している。
春期・秋期、各2週間、総計4週間	附属学校園、協力校園総計(のべ)204校		学校教員養成課程所属学生全員、新課程所属学生の内、教員免許状取得希望者、総計(のべ)770名	「初等教育実習」「中等教育実習」等	附属校園、新潟・長岡市内の公立幼稚園、小学校、中学校および出身校にて、2週間または4週間の教育実習を行っている。
通年	附属学校、協力校	特に設定しない	46名(大学院生1名を含む)	各教科において多様な形で設定。	(1)平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実習」(4年次対象)を実施。 (2)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (3)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。
通年	新潟市教育委員会・学校支援課、新潟市立特別支援学校、小学校、中学校	122校、239人(派遣要請総数)	86校、141名(大学院生2名、他学部4名を含む、新潟青陵大学・県立大学からの派遣数は含まない)	「教育実践体験研究Ⅲ」(学校教員養成課程共通科目、選択、2単位)平成17年度より新設。	(1)平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な取り組みを開始。 (2)平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を構成(カテゴリー「人材養成」事業名「児童・生徒の学力向上推進事業」)。 (3)平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の一環を構成。 (4)平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成を得た。 (5)平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6)平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7)平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。 (8)平成26年度から新潟県立大学からの派遣も開始。
通年	見附市教育委員会 見附市立小・中・特別支援学校	特に設定しない	参加者なし	特に設定しない	7月～9月に実施される補充学習の個別指導、自然教室、水泳指導等に学生を派遣依頼があった。今年度は、応募がなかった。
通年	三条市教育委員会・小中一貫教育推進課、三条市立小中学校	特に設定しない	4校、5名	特に設定しない	三条市立上林小学校、裏館小学校、一ノ木戸小学校、嵐南小学校に対して、学習の個別支援補助、休み時間の遊び、放課後子ども教室および「さんじょう学びのマルシェ」での活動等に学生を派遣した。
通年	燕市教育委員会 学校教育課、燕市立小・中学校	特に設定しない	2校及び市教育委員会、のべ5名	特に設定しない	小学校1校(吉田南小)と中学校1校(燕中)に対して、学習支援(授業補助、特別な支援が必要な児童・生徒の学習の支援)、行事やイベントの補助、部活動の補助に派遣した。 また、市教育委員会の事業(小学校4年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室)に3名を派遣した。

## 2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で21年目を迎えた。主に、教育学部学校教員養成課程1，2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

今年度は、グループ体験コース、子どもふれあいスクール体験コース、中学生キャリア教育コースの計3コース（募集人数35名程度）を開設した。1年次学生だけでなく、2年次以降の学生も見られるようになった。

平成29年度「フレンドシップ実習」

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加学生数
① 子どもふれあいスクール体験コース	齋藤暁史	1学期から毎週、定期的・継続的に学校を訪問して実施している。	市教委と連携し、放課後や土曜日午前中に学校施設内で子どもとの遊び等を通してふれあう	内野小学校 五十嵐小学校 鏡淵小学校 松浜小学校 満日小学校	12名
② グループ体験コース	松井賢二	1) 個別実習 9月に数回 2) 全体実習 8月25日（金）	ひまわりクラブと連携し、学生企画の遊びを通して交流する	西内野ひまわりクラブ	10名
③ 中学生キャリア教育交流コース	大庭昌昭 宮 衛	9月，11月，2月 計3回	中学生との交流を通して、キャリアを考える手助けをする	長岡市立 青葉台中学校	13名
全体発表会	松井賢二 齋藤暁史 大庭昌昭 宮 衛	12月18日（月） 16：30～18：00	各コースの活動発表会を学生主体に実施	教育学部 204講義室	約35名

## 2.3 「入門教育実習」——1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発

### 1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、対応する授業科目として、「教育実践体験研究Ⅱ」（選択、2単位）が設置されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて19年目にあたる。平成22年度から、教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）が担当している。平成29年度においては、実習協力校12校3園、学部教員34名の受け入れ・指導体制によって実施した。

### 2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は131人、受入者は120人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。《コース》は、学生10～16名、学部教員3～4名、実習校担当教員1～3名によって構成される。なお、平成24年度から、「(J) 燕市立小・中学校訪問コース」（定員10名）を新設し、カリキュラムの充実、受け入れ体制の強化を図っている。コースの名称と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	16名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	12名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	10名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	12名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	10名	(J) 燕市立小・中学校訪問コース	12名

上記の体制により、学生は、4月から10月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った（各コースにおいて3回）。内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭等である。

教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（《個別レポート》）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員2名、過去の履修経験者（2年次生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（《総まとめレポート》）を作成・提出し、すべての活動を終了した。

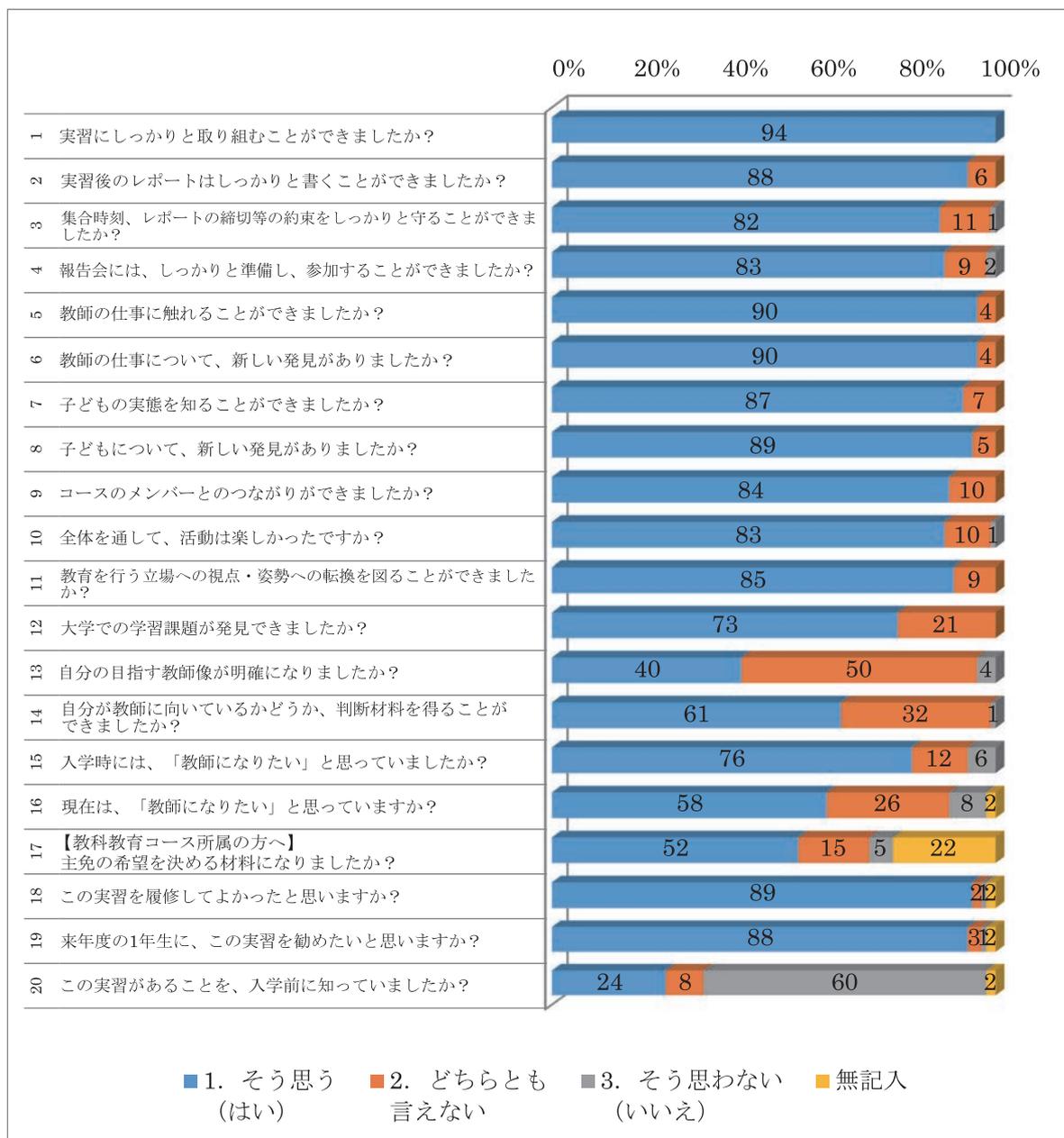


【入門教育実習報告会】

### 3. 学生の動向

平成29年度における学校教員養成課程の入学者は232人，その内，「入門教育実習」説明会への出席者は131名，履修希望者は125名であった。これは，入学者全体の内，それぞれ，56.5%，53.9%にあたる。最終的な受入学生数は120人であり，これは履修希望者の96.0%にあたる。

平成29年度においても，報告会の機会を利用して，「入門教育実習」を履修している全学生を対象とする調査を実施した（回答数94名，回収率75.8%）。結果の一部を次に示す。



### 4. おわりに

「入門教育実習」については、『1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第19年次）』（新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編，2018年3月）に報告している。学部のホームページにも，その一部を公開している。合わせてご参照いただければ幸いです。

## 2.4 佐渡実習

### 1 本年度の佐渡実習実施に向けて

本年度で5回目を迎える「教育実践体験研究Ⅳ」（以下、「佐渡実習」）は、これまでの成果に基づき、事前講義、佐渡現地実習、実習のまとめとふりかえり、そして報告会という流れで実施することとした。なお、本年度の「佐渡実習」報告会は、「入門教育実習」報告会と兼ねて実施することとなった。また、佐渡市地域振興課主催による「あいぼーと佐渡」で2月に実施する報告会にも参加することとした。担当は、森下・岡野・齋藤の3名体制として、佐渡現地実習は森下・齋藤が引率した。加えて、事前講義及び現地でのコーディネーターとして、松田祐樹氏（NPO法人佐渡芸能伝承機構理事長）をお願いした。

### 2 計画と準備

本年度の主たる活動計画は、佐渡市立河崎小学校と両津吉井小学校での参加型活動、及び城腰公民館で花笠踊りならし見学、野崎公民館での刀刀ならし見学、佐渡島自然観察、下久知門付け参加、久知八幡宮秋期例大祭見学・参加であった。何れの活動も、佐渡島の〈ひと・もの・こと〉にたっぷり関わる趣旨で計画した。

島内の宿泊場所は、昨年度に引き続きグリーン・ビレッジ・パティオ・ハウスとなった。また、島内での移動に関しては大学の公用車とレンタカーを使用した。

### 3 事前講義の概要

#### (1) 第1回 4月20日 大講義室

「佐渡実習」の説明会と参加者決定を行った。昨年度「佐渡実習」に参加した先輩からの話に熱心に耳を傾ける姿が印象的であった。その甲斐もあり参加希望者数が定員10名を超え12名となった。事務局で協議の上、定員のとおりの男子7名・女子3名、計10名の参加が許可された。

#### (2) 第2回 6月10日 101講義室

佐渡島の〈ひと・もの・こと〉と深く関わっておられる、松田祐樹氏（NPO法人佐渡芸能伝承機構理事長）を講師にお招きして、佐渡の祭りを中心に講義を受けた。佐渡の祭りについての概要及び後継者問題等について、現地実習での多くの活動視点をご示唆いただいた。

#### (3) 第3回 7月27日 107講義室

出発前の最終確認として、服装や持ち物、支払いにかかわる切符の処理、アレルギーの有無などの確認を行った。また、レポート作成についての説明も行った。今年度から河崎小学校班と両津吉井小学校班の2班体制で実施となるため、班ごとに日程の詳細や緊急時の連絡方法などの確認を丁寧に行った。

### 4 佐渡現地実習の概要

#### (1) 1日目 9月6日（水）

両津吉井小学校班が佐渡に出港した。到着後は両津吉井小学校に行き、高橋喜一郎校長と小田俊裕教頭から事前指導を受けた。そのあと久知八幡宮例大祭の稽古見学をした。

#### (2) 2日目 9月7日（木）

両津吉井小学校班は、鬼太鼓の稽古見学、授業参観を行い、その後5、6年生との交流授業に参加した。

河崎小学校班が出港した。到着後は河崎小学校へ行き、濱田晴明校長と本間英一教頭から事前指導

を受けた。夜は久知八幡宮例大祭の稽古見学をした。

(3) 3日目 9月8日(金)

両津吉井小学校班は、ドンデン山登山の引率を行った。

河崎小学校班は、授業参観を行い、その後5、6年生との交流授業に参加した。夜はまた久知八幡宮例大祭の稽古見学をした。

(4) 4日目 9月9日(土)

両津吉井小学校班、河崎小学校班共に松田祐樹氏の案内で佐渡島内を見学した。佐渡の魅力を存分に味わえた1日となった。

(5) 5日目 9月10日(日)

最終日は久知八幡宮例大祭に参加し、沢山の地域の方々と交流した。



## 5 佐渡実習報告会 12月21日 大講義室

今年度から「入門教育実習」報告会と兼ねて実施することとなった。

学生による活動報告があり、地域の魅力を学ぶことで帰属意識が強くなること、子ども同士のかかわりや自分の意見が伝わる喜びと達成感を大事にすることで学習意欲を高めることができることなど、佐渡実習で学んだことの発表があった。

## 6 佐渡現地報告会 平成30年2月4日(日) 「あいぼーと佐渡」(佐渡市両津夷)

昨年度から佐渡市地域振興課主催の「大学等と連携した地域活性化実証事業合同報告会」に参加することとなった。時化が予想される季節であるため、前日入りして展示パネルの設置や報告会のリハーサルを行い、報告会当日を迎えた。

佐渡市産業観光部長安藤信義氏の挨拶、佐渡市地域振興課係長笠井貴弘氏の趣旨説明に続き、新潟大学教育学部の「佐渡実習」や森下ゼミ「佐渡伝統芸能体験活動」などを含む大学と地域の協力体制などが報告された。

学生による活動報告には、地域代表者として両津吉井小学校長高橋喜一郎氏が登壇し、学生の活動に対して、「学校と地域が一緒になって子どもを育てる視点をもつことができている」「地域における伝統芸能の価値の本質を知ることができている」と価値付けをしてくださった。

報告会終了後は交流会に参加し、東京学芸大学、獨協大学、相模女子大学等の教職員及び学生と親睦を深め、翌日の朝のフェリーで新潟に戻った。

## 2.5 研究教育実習

—教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムの開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、(旧)教育実践総合センター(平成22年度より、教員養成フレンドシップ事業推進室)に教育実習研究会(「研究教育実習」研究グループ)を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成29年度においては、家庭科、数学科、理科、音楽科、美術科の各研究室において取組が進められた。その概要を下記に示す。

また、平成29年度においては、12月15日に、「研究教育実習報告会」が開催され、家庭科と美術科の実践の成果と課題が、実践者から報告された。

なお、今年度の詳しい取組や報告会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開(XIV)』(2018年3月)に記した。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、授業者等)
高木 幸子 (大学院教育学研究科 教育実践開発専攻・家庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次6人、通年、6単位)	(3年次)協働的に小・中学校家庭科の内容及び方法の検討を行い、その一部を実証的に研究した。「家族や家庭生活」「衣食住の生活の基礎」などを学んだ児童が、地域の人々の生活と自分の生活を結び付けて考える内容。題材名は「みんなでつくろう!ほっとするまち」。 (4年次)3年次の経験をもとに、小・中・特別支援学校における授業検討を行った。	(3年次)附属新潟小学校6年1組・2組、29年2月～3月、5時間 (4年次)附属新潟小学校5年2組、11月～12月、3時間/附属新潟中学校1年3組、11月～12月、3時間/附属特別支援学校高等部A、9月、5時間/附属特別支援学校高等部B、11月、7時間/新潟市立西内野小学校3年1組、10月、3時間/新潟市立西内野小学校4年2組、10月、2時間
垣水 修 (自然情報講座・幾何学)	「卒業研究」 (4年次4人、通年、6単位)	卒業研究において、環境問題において算数・数学がどのように活用されているかについて考察し、それらを活かした授業開発をおこなった。子どもたちに、算数・数学が社会や日常生活で利用されていることを伝えること、社会問題を数学的に考える機会を与えることをねらいとし、附属新潟小学校において授業実践を行った。さらに授業実践の分析と反省を行い、改善案の作成を行った。	附属新潟小学校6年1組、11月、2時間
土佐 幸子 興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)	該当なし (2年次5人、3年次5人、4年次6人、教育学研究科の大学院生1人) ※4年次生は単位	「深い学び」を実現するべく探究と協働に焦点を当てて理科授業の開発と実践を行った。テーマ選定、実験教材の開発と授業展開の検討を行った。授業内容に関しては、年4回の中で、物理、化学、生物、地学の4分野を1回ずつ扱い、中学3年生までの既習事項を基盤として発展的な内容を取り上げた。	新潟県立燕中等教育学校第3学年、5月、10月、11月、2月の土曜講座、各80分×2学級 ※2010年度より理数系教員養成拠点構築事業の一部として燕中等教育学校と連携を開始した。事業は2011年度で終了。高大連携事業として継続。

<p>柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>該当なし (4年次2人)</p>	<p>上山小学校は新潟・市民映画館シネ・ウインドの支配人と連携して映画作りワークショップを行った。 内野中学校は地域に新設された公民館「内野まちづくりセンター」で開催される「GCL国際ジュニア映画祭」への出品という前提の下、地域の伝説をテーマにして映画作りを行った。 いずれも、新学習指導要領の動向とも重なっており、映像メディア表現の可能性を示す活動である。映像メディアの扱い方を伝達するよりも、映像メディアに触れて駆り立てられる子どもたちのイメージを引き出し、それを表現する可能性に気づきつつサポートする関わり方を意識した。</p>	<p>新潟市立上山小学校映画クラブ、5月～随時／新潟市立内野中学校美術部、10月～随時</p>
<p>佐藤 哲夫 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>「卒業研究」 (4年次3人。通年、6単位)</p>	<p>卒業研究のテーマから共通項を見出し、全3時間構成の単元を協力してつくり上げて授業実践を行った。「日常的に目にしているも特に作品として鑑賞する機会のない立体造形作品」を扱った単元を展開することでもたらされる子どもの感性の変容、またそれに適した実践方法を探った。</p>	<p>附属新潟小学校低学年3組、12月、3時間</p>
<p>森下 修次 (芸術環境講座・音楽科教育)</p>	<p>「卒業研究」 (4年次1人、その他研究室所属の4年次5人、3年次8人が補助として参加)</p>	<p>附属特別支援学校の「アフタースクール」での器楽演奏、「すなやま祭」での木琴・鉄琴（オルフ楽器）の発表を目標に、半年間、放課後に継続的に稽古を行った。子どもたちは、12月及び1月の発表を堂々とすることができた。駒林特別支援学校高等部より音楽の授業における合奏活動のための編曲等の依頼があった。個々の生徒の能力に応じた編曲等の提供や授業支援、援助を行うことができた。</p>	<p>新潟大学教育学部附属特別支援学校、中学部・高等部、5月～2017年2月、計15回。 ※附属特別支援学校「アフタースクール」事業として実施。 駒林特別支援学校、高等部、11月～2017年3月、計7回</p>



【研究教育実習報告会・美術科報告】



【研究教育実習報告会・家庭科指導】

## 2.6 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業

### — 学生の学校支援を組み込んだ教員養成カリキュラムの開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後15年目にあたる平成29年度において、学校からの派遣要請総数は122校、239人であった。新潟大学から派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、理学部、現代社会文化研究科、自然科学研究科に在籍する学生・大学院生、総計141名である。今年度の派遣先（学校数、派遣人数）は、小学校（56校、90名）、中学校（26校、44名）、幼稚園（2園、4名）、特別支援学校（2校、3名）総計86校である。学校数、派遣人数については、平成28年度（83校、140名）から、学校数は3校、派遣人数は1名増加した。なお、平成18年度から新潟青陵大学、平成26年度から新潟県立大学、平成29年度から新潟薬科大学と新潟医療福祉大学がこの事業に参加している。



【学習支援ボランティア】

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する要望が寄せられている。

大学内においては、9月に中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生102名、派遣校教員21名、大学教員5名、新潟市教育委員会担当者1名、総計129名が参加）。12月には、「平成28年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それに基づく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、新潟大学学生・院生124名、新潟青陵大学学生20名、新潟県立大学学生1名、派遣校教員24名、大学教員5名、新潟市教育委員会1名、総計175名）。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成29年度においては、93名の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第15年次）』を作成した。

なお、関連事業として、三条市教育委員会、燕市教育委員会と連携し、三条市立学校には4校（小学校4校）に5名、燕市立学校には2校（小学校1校、中学校1校）と燕市教育委員会の事業に3名、のべ5名の学生をそれぞれ派遣した。

## 2.7 教育実習

### 1. 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次の入門教育実習、2年次の観察・参加実習、3年次の教育実習、4年次の副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるため、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

### 2. 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

#### (1) 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施している。

#### (2) 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に観察・参加実習を行っており、附属学校において9月に1週間実施している。実習後には、事後指導を兼ねてのキャリアガイダンスを実施している。

#### (3) 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における実習の機会を提供している。

#### (4) 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一堂に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

## 2.8 介護等体験

### 1 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程所属の学生のうち特別支援教育専修を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校教員免許状の取得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

### 2 ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

#### ○ 事前指導

月 日 平成29年4月5日（水）

対 象 平成29年度に介護等体験を希望する者（主として2年生）

（1）開会

（2）介護等体験の実施に当たって

全学教職支援センター教職課程支援部門 部門長 宮園 衛教授

（3）介護等体験受入施設、学校における事前指導

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

「特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 関原 一成 氏

（4）介護等体験に係る諸連絡

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

#### ○ ガイダンス

月 日 平成29年11月22日（水）

対 象 平成30年度に介護等体験を希望する者（主として1年生）

（1）介護等体験実施の概要について

（2）介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

### 3 実習状況

平成29年度は、学校教員養成課程222名、その他の課程75名、大学院1名の計298名が表1及び表2のとおり実習を行った。

### 4 効果と今後の課題

社会福祉施設や特別支援学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等により延べ3名の学生が実習の取消を行い、また、学生の確認・準備不足による期間変更が多数あるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

【表1】平成29年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	65	222	
長岡市	8	13	
三条市	4	5	
柏崎市	5	6	
新発田市	4	4	
加茂市	1	3	
十日町市	2	2	
見附市	2	2	
燕市	4	5	
糸魚川市	2	2	
五泉市	3	6	
上越市	6	7	
佐渡市	4	4	
魚沼市	1	1	
南魚沼市	1	1	
胎内市	3	3	
阿賀野市	1	1	
田上町	1	1	
妙高市	1	1	
村上市	3	3	
小千谷市	2	3	
合 計	123	295	

(H28年度に体験済み1名、取り消し2名)

【表2】平成29年度特別支援学校実習一覧

	回数	実施期間	人 数
附属特別支援学校	1	5月11日 ~ 5月12日	29
	2	5月15日 ~ 5月16日	31
	3	5月23日 ~ 5月24日	28
	4	6月21日 ~ 6月22日	28
	5	7月10日 ~ 7月11日	29
	6	9月14日 ~ 9月15日	26
	7	9月20日 ~ 9月21日	28
	8	10月11日 ~ 10月12日	29
	9	11月8日 ~ 11月9日	30
	10	1月24日 ~ 1月25日	38
合 計			296

(取り消し2名)

## 2.9 インターンシップ

### ・企業等インターンシップ

#### 【学習社会ネットワーク課程】

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

#### 1. 平成29年度インターンシップの概要

##### ・実施時期及び期間

平成29年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）、あるいは7月～12月に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）。

##### ・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

##### ・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。社会教育主事資格の演習科目。担当教員：雲尾）単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

##### ・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：中【1】，石山【1】，中央【3】，鳥屋野【2】，東【1】，関屋【2】，亀田【2】，曾野木【1】，白根【2】，坂井輪【2】，西【3】，小針青山【1】

新潟市図書館：中央【5】，坂井輪【2（公民館実習と兼ねる）】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

新潟県立生涯学習推進センター【2】

#### 2. 報告書

『平成29年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成30年2月19日）50部発行。実習受入機関，新潟市内公民館・図書館，関連機関，実習学生に配布していますので，図書館等で閲覧可能です。また，後年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布してインターンシップへの志向性を高め，実際に行う際の参考にさせています。

## 【健康スポーツ科学課程】

### 平成29年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習

本課程においては、平成12年より3年次生を対象に課程共通必修科目として「ヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習」の科目名でインターンシップを実施している。

ヘルスプロモーションコースにおいては、主に健康増進関連機関において実態観察と事業運営、健康づくり関連の運動指導等の実務に携わり、スポーツ科学コースにおいては、主に体育・スポーツ振興関連諸機関、施設において、事業運営実務、事務、実技指導補助等に業務経験を行う実習を行っている。

今年度の実習先は14か所であった。実習先は下記一覧のとおりである。

実習に赴く前に6回の事前指導と、特別講義を行った。特別講義は特定非営利活動法人「スマイルクラブ」の大浜三平氏を講師に招き、「スポーツと社会公益性」という演題で平成29年7月27日（木）に実施した。

平成29年10月19日（木）には実習先の担当者をお招きしてヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習報告会を開催し、各実習先での実習の様子、成果を報告した。実習の様子や成果をまとめた平成29年度実習報告書を作成した（平成30年3月）。

#### <実習先・人数・期間>

1) 新潟県体育協会（2名）	9月11日（月）－9月24日（日）
2) 健康づくり・医科学センター（3名）	8月30日（水）－9月12日（火）
3) 新潟市スポーツ振興課（2名）	8月28日（月）－9月10日（日）
4) 新潟市陸上競技場（2名）	9月12日（火）－9月25日（月）
5) 西総合体育館（2名）	9月05日（火）－9月18日（月）
6) 東総合体育館（2名）	9月05日（火）－9月18日（月）
7) 鳥屋野総合体育館（2名）	9月05日（火）－9月18日（月）
8) 亀田総合体育館（2名）	9月12日（火）－9月25日（月）
9) 下山スポーツセンター（2名）	9月12日（火）－9月25日（月）
10) 障害者交流センター（2名）	9月12日（火）－9月24日（日）
11) ビジョンよしだ（4名）	8月25日（金）－9月07日（木）
12) 燕市体育センター（1名）	8月29日（火）－9月11日（月）
13) メデカル フィットネス クオーレ（3名）	9月11日（月）－9月24日（日）
14) メデカル フィットネス ウォーム（3名）	9月11日（月）－9月24日（日）

## 2.10 各課程の特色ある教育活動

### 【学校教員養成課程（国語教育）】

特色ある活動として、年に2回の学会を開催し、機関誌『新大国語』を刊行している。  
詳細は下記の通り。

#### 1. 新潟大学教育学部国語国文学会

##### (1) 新潟大学教育学部国語国文学会平成29年度夏期研究会

日時： 平成29年7月22日（土）14：00～17：00

場所： 新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容： シンポジウム「『平家物語』の新たな授業づくりの方法と実践」

シンポジスト 鈴木 恵（新潟大学教育学部）

シンポジスト 元井 啓介（新潟大学教育学部附属長岡中学校）

シンポジスト 武井 正明（三条市教育委員会）

コーディネーター 磯貝 淳一（新潟大学人文学部）

##### (2) 新潟大学教育学部国語国文学会平成29年度研究大会

日時： 平成30年2月3日（土）14：00～17：15

場所： 新潟大学附属図書館ライブラリーホール

内容： ①研究発表

「生徒が異本を活用し読みを深める古典学習についての研究」

長岡市立江陽中学校 伊藤 裕

「『大鏡』作者の位置 — 「小野宮の御孫」公任の叙述から」

元・新潟市立中学校教諭 五十嵐 正子

② 講演

「主題指導のゆくえ — 田中榮一・清田文武両名誉教授に学ぶ —」

新発田市立川東中学校 三村 孝志

③総会

##### (3) 機関誌『新大国語』の編集・刊行

①『新大国語』第39号（平成29年3月）を刊行。

②『新大国語』第40号（平成30年3月）を編集。

## 【学校教員養成課程（理科教育）】

### 1. 化学実験公開講座の開催（2017年8月8日（火））

高校生のための化学実験体験公開講座「夢・化学-21 化学への招待 一日体験化学教室」で、教育学部の化学科教員2名および技官1名、4年次学生4名が「発泡性入浴剤（バブ）を作ってみよう」、「pHメーターを使ってみよう」の2テーマ（全14テーマ）の講座を企画した。

### 2. 見附市教育委員会の「みつけこども大学」事業での出前授業実施（2017年11月24日）

見附市立新潟小学校の6年生児童総勢9名を対象に、「軽石は何からできるのか？」と題した出前授業を大学院生1名と一緒にいった。火山噴火の仕組みや種類について解説し、その後3つの班に分かれて実際に火山から放出された軽石を水に浮かべたり、ドライヤー火山で噴火させる実験を行って、擬似的な噴火体験をした。

### 3. 新潟市立五十嵐小学校「大学教員による出前授業」

理科の学習「大地の作りと変化」に関連して、五十嵐浜の風紋について学び、自然が織りなす美しさと思議な現象に触れることを通して、地学への興味関心を高めることを目的として、新潟市立五十嵐小学校「大学教員による出前授業」を行った。この取り組みは、新潟市の平成29年度「地域と学校ドリームプロジェクト支援事業」の一環である。

日 時：平成29年12月20日、1時限（6の1）、2時限（6の4）、3時限（6の3）、および4時限（6の2）

対 象：五十嵐小学校6年生全クラス（4クラス）

内 容：砂の芸術～五十嵐浜の風紋～

### 4. 群馬県立太田女子高校理科研究部地学班との連携活動

microfossil群集解析から釧路平野の沖積層の古環境変遷解析を試みる取り組みに対して、アドバイス、指導を行った。同校理科研究部地学班の平成29年度の研究成果報告は、以下の通り。

- (1) 群馬県理科研究発表会 【最優秀賞】
- (2) 群馬県SSH・SGH・SPH等合同成果発表会
- (3) 学生科学賞群馬県審査（県大会） 【最優秀賞】
- (4) 学生科学賞中央予備審査（全国大会）
- (5) 日本地質学会 ちいさなEarth scientistのつどい～第15回 小・中・高「地学研究」発表会～  
【優秀賞】
- (6) 全国高等学校総合文化祭 自然科学部門 地学部門
- (7) 千葉大学 高校生理学研究発表会 【優秀賞】
- (8) 地球惑星科学連合大会 高校生セッション

## 5. 特色ある教員養成

### (1) 新潟県立燕中等教育学校での高大連携土曜講座実施

正規の授業外に位置付けられている高大連携土曜講座において、班ごとの実験やICT活用を豊富に取り入れた80分の理科授業を学生が行った。実施したのは、中学3年生の2学級を対象に、複数の分野における下記の4回の授業である。

- ① 2017年5月20日（土）「染色のしくみ」（化学）
- ② 2017年10月7日（土）「共振の不思議」（物理）
- ③ 2017年12月2日（土）「セッケンの不思議」（化学）
- ④ 2018年2月24日（土）「においの不思議」（生物）

### (2) 月刊「理科教室」の読者モニター

理科教員のための月刊誌「理科教室」の学生モニターとして、輪番で毎月感想文を執筆し、投稿した。

## 【書表現コース・書道分野】

全国でも大変珍しい書文化を中心とする制作及び座学研究を両立させることを目標としてカリキュラムを構成している。この学内研究の成果を定期的に学外に向けて発表している。授業の延長にあるものと、学生が主催者となって行っているものがある。

- 1 2年生による学年展（2017.5）西新潟市民会館
- 2 西日本出身者有志の書展（2017.6）新潟県民会館3階
- 3 東日本出身者有志の書展（2017.8）新潟県民会館3階
- 4 夏期錬成会（2017.9）新潟大学内
- 5 学園祭におけるパフォーマンス書道（2017.10）新潟大学内
- 6 第50回書道科展（2017.12）新潟県民会館3階
- 7 卒業修了制作書展（2018.2）新潟県民会館3階

特に上記のうち書道科展は記念すべき節目を迎えた。そこで特別企画として会期中展覧会場において

- (1) 日下部鳴鶴の自用印の展示
- (2) 学生席上揮毫
- (3) 大学院生による研究発表会

を催した。3日間の会期中、一般市民及び遠方からの卒業生を含む400人あまりの来場者があった。

## 8 出前講義

以上の展覧会を主とする活動に加え、教員養成に直結した関連行事として学生を引率しての出前講義を行った。国語科教育として文字に関する一般教養と書き方、郷土の文芸に関する総合学習の内容、芸術科書道の指導内容にわたる幅広い教育活動に関与した。伺ったところは、

- (1) 見附市立見附小学校
- (2) 新潟市立五十嵐小学校
- (3) 新潟市立赤塚中学校
- (4) 長岡市立北辰中学校
- (5) 富山県立新湊高等学校
- (6) 第一高等学校
- (7) 新潟市関屋地区公民館
- (8) 西川学習館

などをはじめ、各地からの要請に応じている。



他、社会的要請に応じたものとしては大字を出張先で披露する、いわゆるパフォーマンス書道実演の要望が増えている。一例として

### 9 新潟県警 秋の交通安全フェスティバル 免許センター (2017.9)

における活動をあげる。

平成29年度入学生から教員養成を更に意識した教育活動に取り組んでいるが、従来の書道科の特色である芸術活動の追究を大切な伝統として捉え、新しい入学生たちも書道科ならではの行事に積極的に参加している。



## 【音楽科教育専修】

### 佐渡豊岡地区祭りの参加

今回で9年目になる佐渡市豊岡地区祭り（鬼太鼓）に森下研究室所属学生全員が参加した。3月26日に佐渡に入りし、民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。本年も昨年同様第1日曜日の4月2日に祭りが行われた。また、今年も学生1名が面、装束を着けて鬼をまっした。祭りの様子は2017年4月18日放送、テレビ新潟（Teny）「夕方ワイド新潟一番」の住民十色特別編として約10分間にわたって放送された。



また、新潟市立庄瀬小学校の要請により、同校に出向いて6年生の児童に鬼太鼓の指導を行った。

### 新潟市立内野小学校訪問演奏

今年度も大学に近い新潟市立内野小学校に行くことになった。今年度のテーマはアフリカの音楽でジャンベと言われるアフリカの太鼓を中心とした演奏と舞を教材とした授業、全校児童の前で演奏と舞を披露した。企画を担当した3年生は、新潟大学から自家用車で10分ぐらいのところにあるアフリカ民俗楽器専門店を見つけ出し、同様に市内在住の指導者も見つけて、アフリカ現地の伝承者によるものを含むワークショップに参加してアフリカ音楽の研鑽を積んだ。この題材は休日や夏休みなど、時間をかけて教材化と模範演技の稽古が行われた。また、この活動のために教育後援会からジャンベ19台を購入してもらった。



全校向けの訪問演奏は9月20日（水）の朝の時間、内野小学校で継続的に行われている「ミュージック・タイム」の時間に催された。また、昨年同様、ミュージックタイムの前日までに3年生に事前授業が行われた。

### 附属特別支援学校アフタースクール

今年度も昨年に続き附属特別支援学校中高等部の課外授業としてアフタースクールの授業を行った。今年度の題材は新潟市立内野小学校訪問演奏でも取り上げたアフリカ音楽の太鼓演奏と舞であった。今年の活動は例年にも況して好評で、12名の受講者で始めたアフタースクールは最終的に18名まで増えた。本番の衣装は、いつも支援して下さる生徒の父母の方々や家庭科が専門の高木幸子校長による手作り衣装で本番を飾った。本番は12月1日の授業研究会および1月27日のすなやま祭りで披露され、好評を博した。また活動の様子は2017年6月16日付新潟日報の第20面にも掲載された。



## 【音楽表現コース】

新潟市西区役所との連携により，大学と地域連携プロジェクト「音届2017～西区にもっと音楽を～」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1，2」並びに「卒業研究」）の中で，マネジメント実習も兼ねて行った。

このプロジェクトは，新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので，2017年度は13名の学生スタッフの発案・運営による，学校ワークショップも含めた3企画5公演が行われた。これらは，西区と世界を繋げるコンセプトの下に全企画を関連付け，学生たちの手によって運営されて，地域の方々延べ1300人にご来場いただいた。

今年度は管楽器に焦点を当て，代表的な木管楽器であるオーボエと，やはり代表的な金管楽器であるトランペットに国内最高の名手を得て，楽器の構造や可能性などに関する親しみやすいトークやデモンストレーションを交えたプログラムを展開した。また従来から人気の高いオペラも継続し，二期会で活躍する歌手陣が出演して好評のうちに終えた。

詳細は，横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に掲載の全体広報誌や各企画のチラシ，プログラム等を参照のこと。

【学校教員養成課程（保健体育）及び健康スポーツ科学課程】

アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports for P.E.A.C.E.～

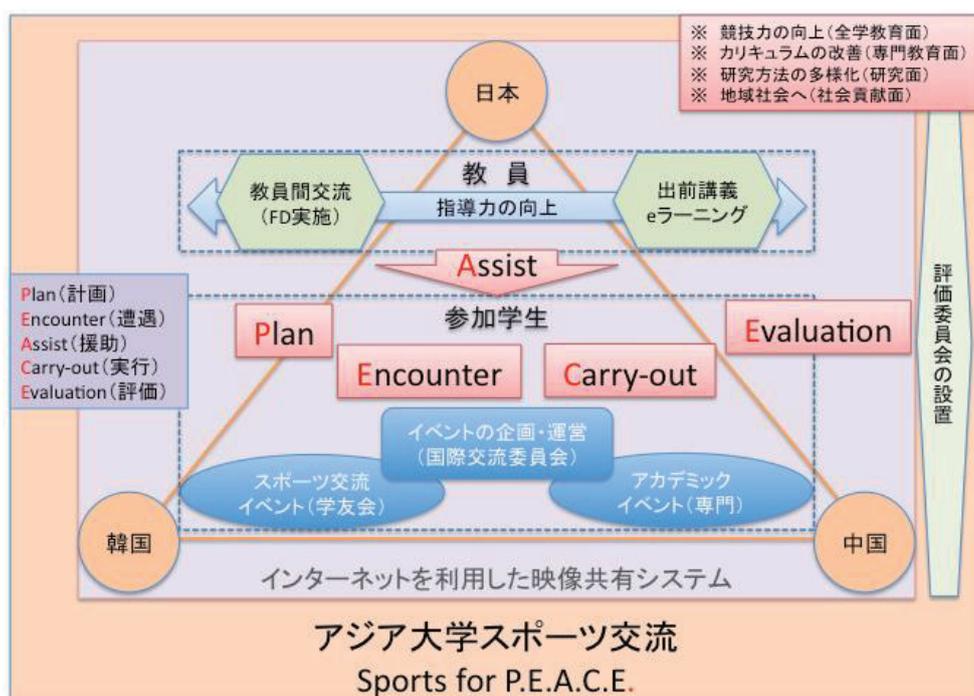
本プロジェクトは、平成22年度より3年間、新潟大学GPに採択され始まった取り組みであり、今年度で8年目を迎えた。新潟という地域性を活かし、アジアの大学間（韓国：漢陽大学，中国：哈爾濱商業大学，日本：新潟大学）でのスポーツ活動に関わる交流を深めてきた。

学生は、それぞれの国の文化的背景も含めたスポーツ関連情報の学習はもとより、そうした交流イベントを自ら企画・運営することを通して実践的な学びを深めることを目的に活動を継続している。

また、競技力向上に関しては、各種目の指導法やフィジカル面，メンタル面などの科学的側面の情報交換も行い，オリンピックやユニバーシアード等が開催された国々から大会運営などの現状や地域社会への波及効果等の学習も目指している。さらに，スポーツという共通の文化を通して，各国の文化や言語の違いといった障害を超えた実践的なコミュニケーションスキルの向上を獲得することも期待している。

本取組の概要は図のとおりで，対象学生は，主に教育学部保健体育・スポーツ科学講座の学生・大学院生（専門課程）である。3大学間での交流では，主に「スポーツ交流イベント」と「アカデミックイベント」の2つのイベントを実施している。こうしたイベントを通して，大学全体の競技力向上へと繋がるのが一つのねらいである。また，そうしたイベントの開催を学生自らが企画・運営すること（専門課程学生を対象とした国際交流委員会を設置）を通して異国間でのコミュニケーションスキルを身につける。

図：アジア大学スポーツ交流プロジェクトの概要  
本年度（平成29年度）の交流について



日 程；平成29年12月4日（月）～8日（金）

場 所；中華人民共和国，哈爾濱商業大学ほか

参加者；新潟大8名（教員1名，学生7名），漢陽大（教員2名，学生6名）

ホスト大学；哈爾濱商業大学（教員10名，学生多数）

主な内容；（交流のスケジュール）

◎12月4日（月）ミーティング，歓迎パーティ

3大学参加者によるミーティングにおいて，日程などが説明された。特に，今年度はロシアの大学からもゲストがあることが紹介された。歓迎パーティ（各参加者の紹介・挨拶，記念品交換など）には，哈爾濱商業大学の副学長先生も参加された。参加学生は，積極的に他大学の学生とコミュニケーションをとる姿がみられた。

◎12月5日（火）開会式，学術交流，室内スキー場見学

午前には，3大学及びロシア極東大学の参加者も含め，盛大な開会式及び学術交流イベントが行われた。新潟大学からはスキーの初心者指導法について，漢陽大学からは直前に迫っていた平昌オリンピックについての講演があった。哈爾濱商業大学の学生はじめ多くの質問があるなど活発な議論が行われた。午後には，新設された室内スキー場（世界最大とのこと）の見学を行なった。

◎12月6日（水）7日（木）スキー交流イベント

哈爾濱市内からスキー場へ移動し，実際にスキーを行ったり，各国代表学生による氷雪文化に関する情報交換が行われた。新潟大学の代表学生は，事前に準備した中国語によるプレゼンを，韓国の代表学生は日本語によるプレゼンを行うなど，第8回となる本プロジェクトは確実に進化していることを確認する機会となった。

◎12月7日（木）夜フェアウェルパーティー

来年度は，韓国の漢陽大学が主管となって本プロジェクトを開催することを確認しプロジェクトを終了した。

まとめ；本プロジェクトも今回で8年目を迎え，3大学での交流が確実に各大学において定着するとともに，交流のプラットフォームが完成しつつある。そのことが，参加する学生にとって充実した学びの土台となっていることは間違いのないことである。一方で，新潟大学教育学部では健康スポーツ科学課程の募集停止を決定したため，中心として活動してきた学生が不在となる方向へ向かっている。せっかく確立したこのプラットフォームを今後どのように活用・発展すべきが大きな課題となる。

<資料：平成29年度の交流の様子>

◎ミーティング，歓迎パーティ



◎開会式，学術交流



◎室内スキー場の見学



◎スキー交流イベント



◎各国の冰雪スポーツの紹介

### 【2017新大なんでもスポーツプロジェクト】

12年目を迎えた「新大なんでもスポーツプロジェクト」は、今年度も保健体育・スポーツ科学講座の大学院生、学部生、そして教員が力を合わせて実施した。今回は、7コースを企画し、地域の人々とスポーツを通じた交流を行った。さらに、地域の方々を対象に学生がスポーツを指導することで、指導者としての資質を高める大変意義のある機会となった。

以下は、今回の7つのプロジェクトの名称と参加者数を示した表である。

コース名称	募集人数	回数	開催日時	参加者人数
A 安全・安心のためのスポーツ環境づくり －スポーツ指導におけるリスクマネジメント－	約30名	2	7/10(月) 7/14(金)	35 39
B キッズリズム体操 －リズム体操とGボール、縄の運動でダイナミックに動こう！－	約20名	2	9/16(土) 9/23(土)	13 13
C 360° 回転！ラート体験	約8名	2	9/16(土) 9/23(土)	19 19
D 小・中学生のための卓球教室	60名	4	9/17(日) 9/18(月・祝) 9/23(土) 9/24(日)	109
E スイムクリニック	約30名	2	10/7(土) 10/14(土)	33 37
F 親子の自然体験教室 －カヌーを使用した自然体験－	親子8組	2	10/14(土) 10/28(土)	29
G スキースクール	約30名	1	1/6(土)～ 1/8(月)	19



## 2.11 中・高校生等の大学見学

本学部では入試広報の一環として、高等学校からの見学受入れを積極的に行い、本学部の特色や魅力を発信している。

担当教員はカリキュラムや就職状況等を説明した後、専門性を生かした模擬授業を行い、進学希望者への学部理解に努めている。

No	実施日	学校名	参加者	担当教員
1	4月14日	日本文理高等学校	3年生7名	藤林 紀枝（広報委員・副学部長）
2	5月11日	山梨学院高等学校	2年生16名	有川 宏幸（広報委員長）
3	5月26日	鶴岡東高等学校	2年生10名	田中 誠二（広報委員）
4	6月8日	福島成蹊高等学校	2年生4名	有川 宏幸（広報委員長）
5	6月30日	新潟県立巻高等学校	保護者4名	藤林 紀枝（広報委員・副学部長）
6	7月13日	小千谷高等学校	1年生60名	中村 和吉（広報委員）
7	7月18日	新潟青陵高等学校	2年生12名	小林 繁子（広報委員）
8	7月21日	群馬県立富岡東高等学校	1,2年生24名 保護者3名	麓 慎一（広報委員）
9	9月14日	福島県立郡山高等学校	1年生64名	高木 幸子（広報委員）
10	9月28日	長野県長野西高等学校	1年生41名	田中 咲子（広報委員）
11	10月11日	福島県立福島東高等学校	2年生56名	高木 幸子（広報委員）
12	10月25日	新潟県立新発田高等学校	保護者51名	藤林 紀枝（広報委員・副学部長）

### 【附属学校等からの見学】

No	実施日	学校名	対象者	担当教員
1	6月13日	附属長岡小学校	小学校5年生66名 及び保護者66名	小林 日出志郎（附属長岡小学校長）
				田中 咲子（広報委員）
2	9月26日	附属長岡中学校	中学校1年生 120名	土佐 幸子（附属長岡中学校長）
				有川 宏幸（広報委員）

### 3. 就職支援

#### 3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、次のとおり「教職理解特別講座～教員採用検査に向けての対策と指導～」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの津野 敏江客員教授、田中 賢一特任教授、川端 弘実特任教授、竹内 公英特任教授である。

##### 1. 目的

講座の受講を通して、教育現場の実際を知り、多様な教育課題の解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師としての在り方を学ぶ。また、教員採用検査に向けて、筆答検査の勉強の観点、模擬授業の在り方、個人・集団面接の在り方、等々の具体的な対策を学ぶ。

##### 2. 実施内容

###### (1) 応用コース

対象者：学部4年生、大学院生、養護教諭特別別科生、新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55）、場所：204教室

	開催日	講義内容
1	4月13日（木）	ガイダンス・小論文ファイリングの仕方 出願書類の書き方
2	4月20日（木）	出願書類の実際と評価演習 筆答検査問題対策
3	4月27日（木）	新潟県教育委員会・新潟市教育委員会から採用検査の説明
4	5月11日（木）	小論文のまとめ・面接総論
5	5月18日（木）	面接各論（個人・集団・場面指導・模擬授業）
6	5月25日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
7	6月22日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
8	6月29日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
9	7月6日（木）	ニーズ別演習（面接・場面指導・模擬授業）
10	7月13日（木）	二次検査対策Ⅰ
11	7月20日（木）	二次検査対策Ⅱ
12	7月27日（木）	二次検査対策Ⅲ & 私立学校等希望者への指導助言
13	11月9日（木）	臨時教員採用希望者への指導助言 ～学校教育を支える職種と業務～（採用内定者を含む）
14	11月16日（木）	採用候補者への指導助言（臨採希望者も含む）

(2) 基礎コース

対象者：学部3年生，大学院1年生，新潟大学の卒業生

開講時間：5限（16：25～17：55），場所：204教室

	開催日	講義内容
1	10月5日（木）	特別講座《基礎コース》ガイダンス ～教採への対策と準備～
2	10月12日（木）	教育関連法規と学習指導要領のポイント ～新学習指導要領と主体的・対話的・深い学び～
3	10月19日（木）	学習指導上の課題とその解決に向けて ～授業の配慮点と学校現場の授業の実際～
4	11月30日（木）	小論文の書き方とポイント ～学習指導&学力向上を中心に～
5	12月7日（木）	豊かな人間関係づくりの方策と取組 ～生徒指導上の課題と解決に向けた取組～
6	12月14日（木）	小論文の書き方と評価 ～豊かな人間関係づくりを中心に～
7	12月21日（木）	小論文の書き方と演習 ～危機管理を中心に～
8	1月11日（木）	教育行政が期待する教師像 （新潟県教育委員会・新潟市教育委員会）
9	1月18日（木）	小論文の書き方と目指す教師像 ～自分の教育観・指導観を構築する～
10	1月25日（木）	本講座のまとめと次年度《応用コース》に向けて ～自己PR&願書の書き方～

## 3.2 教員採用就職対策支援プログラム

教員採用試験対策の充実・強化を図るため、教員採用試験対策支援プログラムを下記のとおり実施した。

### 1. 教員採用試験対策支援プログラム（H30.4採用者向け）

#### (1) 教員採用検査合格者（卒業生）の模擬授業見学

平成29年5月30日（火）、昨年度教員採用検査で合格を果たし、正規教員となった卒業生2人を招き、教員採用検査を想定した模擬授業を行った。参加者は55人。

実際の教員採用検査と同じ進捗で授業を実施した後、質疑応答を行った。参加者からは大きな刺激となった様子うかがえた。

#### (2) 教採対策講義（特別支援教育）

平成29年5月31日（水）長澤教授による、教採対策講義「特別支援教育の現状と今後」が行われ、7人の参加があった。

#### (3) 理科実技試験対策

平成29年5月29日（月）、6月21日（水）、30日（金）、教員採用検査対策支援プログラムとして「理科実技試験対策」を行った。参加者は延べ14人。理科教員から、実技試験を想定した実験器具の操作方法等について具体的なアドバイスを受けた。

#### (4) 小論文指導

平成29年6月23日（金）、小久保教授指導のもと、「小論文指導」を行った。参加者は25人。参加者は論文を書くためのポイント等についてアドバイスを受けた。



#### (5) 模擬授業

平成29年7月3日（月）～5日（水）、26日（水）、28日（金）、31日（月）の6日間、実際の教員採用試験を想定した「模擬授業」を行った。参加者は延べ144人。藤林教授・齋藤准教授を中心に、多くの教員の協力を得て実施した。

授業実施者が、実際の教員採用試験を想定した模擬授業を実施し、参加者との質疑討論の後、教員等からアドバイスを受けた。

#### (6) 場面指導

平成29年7月25日（火）、「場面指導」対策講義を行った。参加者は62人。

全学教職支援センター竹内特任教授、教職指導の齋藤准教授が面接官役となり、学生代表者と実際の教員採用試験を想定した場面指導を行った。参加者は、二次試験に向け意欲を高めた。



## 2. 教員採用試験対策支援プログラム（H31.4採用者向け）

### (1) 教員採用試験の最新動向と対策（時事通信出版局ガイダンス）

平成29年12月15日（金）、時事通信出版局から講師を招き、教員採用試験の最新動向と対策について講演を行った。参加者は56人。

今年度実施された教員採用試験の動向を踏まえた対策や過去問の分析、最新教育時事の傾向と対策について、講演をいただいた。



### 3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生を対象とした、本学部独自のキャリア支援ガイダンスを開催した。

#### 2年次生向けキャリア支援ガイダンス（観察・参加実習事後指導）

平成29年9月11日（月）に、2年次教育実習（観察・参加実習）を終えた学生向けに、（1）観察参加実習を振り返って、（2）3年次の教育実習での心構え、（3）教員という職業についてを中心に、グループワークおよび発表を行った。

参加した学生は、観察・参加実習を振り返り、3年次に行う教育実習に向けて、また自身のキャリア形成について考える良い機会となった。



### 3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

本学部独自の一般企業・公務員志望学生向けセミナーを下記のとおり開催した。

#### 1 公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー

平成29年11月27日（月），企業・公務員就職を希望する3年次生を対象に就職対策講座を開催した。

講座では，内定者4人による具体的な就活体験談とパネルディスカッション，キャリアセンターキャリアコンサルタントによるアドバイスが行われた。

体験発表では，企業就職を果たした内定者2人から，就職する企業を志望した理由，具体的な活動の時期や内容について，公務員就職を果たした内定者2人から，試験勉強の方法，教員採用検査受験・一般企業就活との並行についての具体的な話があった。

続いて，株式会社マイナビから就職活動動向と秋冬インターンシップの活用法のアドバイスがあった。

キャリアコンサルタントからは，キャリアセンターの活動についての紹介，自己理解や業界研究・企業研究の必要性を中心とした今後の取り組みについてのアドバイスがあった。



### 3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

#### 1. 「臨時教員採用希望者登録ガイダンス」（「教職理解特別講座応用コース」第13回）

日時：平成29年11月9日（木）5限（16：25～17：55）

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時教員採用希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、全学教職支援センターの川端特任教授から、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、学務情報システムを利用して該当する学生に随時通知を行った。

#### 2. 平成30年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」（登録者数28人）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、新潟県内の私立学校及び学生から希望のあった県外の6自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会及び各教育事務所等、並びに宮城県、仙台市、山形県、福島県、埼玉県、長野県及び富山県教育委員会へは、全学教職支援センター教員が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

#### 記

訪問先	期日	担当教員
新潟県教育委員会	平成30年2月2日（金）	竹内特任教授 川端特任教授
新潟市教育委員会	平成29年12月18日（月）	田中特任教授
下越教育事務所	平成29年12月19日（火）	田中特任教授
中越教育事務所	平成30年1月25日（木）	川端特任教授
上越教育事務所	平成29年12月25日（月）	津野客員教授

### 3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス

教員採用試験対策として、本学部独自に教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

#### 1 教採合格ガイダンス（4年次生向け）

平成29年4月25日（火）、今年度教員採用検査受験予定者を対象に、新潟県・新潟市の教員採用検査募集要項（願書）の配付を兼ねて「教採合格ガイダンス」を開催した。

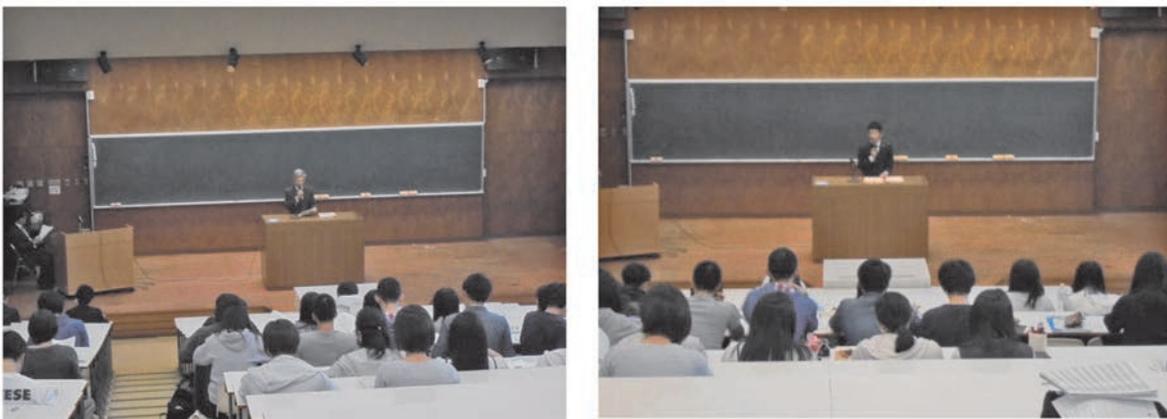
ガイダンスは、（1）中学校で正規教員として勤務している卒業生による体験談の発表、（2）齋藤准教授から、教員採用検査本番にあたっての心構えや諸注意、具体的なアドバイスおよび教員採用検査対策支援プログラムなど大学のサポートの説明、（3）全学教職支援センター所属の教員から、自己PRカード記入上の留意点の説明などが行われた。



#### 2 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

平成29年10月18日（水）、来年度の教員採用検査受験予定者を対象にガイダンスを開催した。

ガイダンスでは、（1）全学教職支援センター所属教員から「教職理解特別講座」の説明、（2）昨年度教育学部卒業生で県内の小・中学校で活躍している先輩2人から教員を目指すにあたっての体験談発表、（3）齋藤准教授から教員採用検査や教員という職業への心構えをはじめとした具体的なアドバイスをいただいた。



### 3.7 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページの就職情報ページには、教員や公務員、一般企業への就職を希望する学生向けに、教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘話など、教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページURL：

[http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content\\_id=1](http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1))

The screenshot shows the homepage of the Faculty of Education at Niigata University. The header includes the university logo and name in both Japanese and English. A search bar is located in the top right. Below the header is a navigation bar with icons for Home, Undergraduate, Graduate, School-Related, Alumni, and Intra-university Information. The main content area is titled '現在の場所: ホーム > 就職情報 > 就職情報Top'. The left sidebar contains a 'メインメニュー' (Main Menu) with links to Home, Faculty of Education, Graduate School of Education, Faculty-Friendship Activities, Specialized Courses, Affiliated Schools, Admission Information, Career Information, Publications, and Access. The main content area is divided into several sections: '就職情報' (Career Information) with sub-sections for '就職実績' (Career Achievements) and '就職にむけて' (Towards Career); '就職体験記' (Career Experience) with links for years 2013-2010; '教員採用検査(面接)内容調査 (学内限定情報)' (Teacher Recruitment Exam Interview Content Survey (Intra-university Limited Information)) with a grid of links for years Heisei 30 to 23; and '就職支援活動' (Career Support Activities). The right sidebar features promotional banners for the Graduate School of Education, the Shiono Library, a commemorative photo album for the university's 60th anniversary and the faculty's 135th anniversary, and the Faculty of Education's logo and name.

### 3.8 教職サポートルーム

教員を志望する学生への支援充実を図るため、教育学部内に「教職サポートルーム」を設置している。

教職を目指す学生が自由に利用でき、指導書や教職関連冊子が閲覧できるほか、電子黒板などを使った模擬授業を行うスペースがあり、教採試験間際は利用度が多い。

また、教職指導担当教員が週2回常駐し、学生からの相談に対応する体制が整っていて、学生が気軽に相談できる環境となっている。



教職サポートルーム (101講義室)



模擬授業スペース・電子黒板ほか



指導書・参考文献・自習スペース



教職関連雑誌・情報検索用パソコン

## 4. 学部FD

今年度は、学外から早稲田大学教授由布佐和子氏、東京薬科大学教授田子健氏に講演をお願いし、それらを含めて全8回の学部FDを実施した。

No	実施月日	会場	演 題	講師 (敬称略)
1	4月13日(木) 13:30~14:30	大会議室	「教職課程コアカリキュラム(案)」と私たちの課題 ー「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会(第4回2017年3月27日)を傍聴してー	岡野 勉 釜本 健司
2	6月2日(金) 16:30~17:30	大会議室	シンポジウム「教職課程コアカリキュラムの展望と課題」報告	古田 和久 釜本 健司
3	6月30日(金) 16:00~17:30	204 講義室	大学における教員「育成」の最新動向とその問題点	油布 佐和子 (早稲田大学教授)
4	7月13日(木) 13:30~14:30	大会議室	新潟大学教職大学院の学びの特色	小久保 美子 一柳 智紀
5	7月14日(金) 16:30~18:00	大会議室	平成31年度教職課程再課程認定の特徴と申請の課題	田子 健 (東京薬科大学教授)
6	7月27日(木) 13:30~14:30	大会議室	文科省ブロック別説明会(関東)の報告	釜本 健司
7	12月14日(木) 13:10~14:20	大会議室	教職大学院の専任・兼担についてー新潟大学における教員養成の将来ー	柴田 透
8	1月11日(木) 13:00~14:20	大会議室	国立教員養成学部の改革の方向性について	大浦 容子(理事) 濱口 哲(理事)

## 5. 地域貢献

### 5.1 平成29年度 新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」

#### 1. 平成29年度新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」(以下「12年研修」と称する)は、平成29年度で14年目を迎えた。

##### (1) 日程

平成29年度の「12年研修」の活動日程は下表のとおりである。

日程	研修内容	場所等
6月29日	センター・学部の事前打合せ会	教育学部
8月1日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月9日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月23日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	代表者授業研究会等	受講者の各学校
10月～12月	「研修のまとめ」	センター・学部

6月の事前打合せ会で、新潟市立総合教育センター（新潟市教育委員会を含む）指導主事と教育学部担当教員とが一堂に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間にわたって実施され、各受講者の授業

力の課題の検討、授業改善計画の検討、学習指導案の検討、模擬授業等に取り組んだ。これらを踏まえて、9月以降に、グループごとの代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から12月までの期間に、グループごとに「研修のまとめ」を実施した。

##### (2) 受講者・指導者・グループ編制

教科ごとの受講者数、グループ数、指導者数等は、以下のとおりである。

教科名	受講者数	グループ数	指導主事数	学部教員数
国語	5	2	2	2
社会(中)	3	1	1	1
算数・数学	23	6	6	6
理科	6	1	1	2
音楽	6	2	1	2
図工・美術	4	1	1	1
体育	4	1	1	4
家庭	1	1	1	1
社会(小)・生活・総合	4	1	1	1
英語	7	2	2	2
道徳・特別活動	3	1	1	1
特別支援教育	10	2	2	2
合計	76	21	20	25

教科・領域ごとに1班1～6名のグループを編制し、指導主事と学部教員がペアで参加する体制をとった。

教育学部からは、昨年度から3名多い25名の教員が参加した。保健体育のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もあった。これらの教科では常時複数名が参加し、受講者の研修内容に応じて、指導・助言を行った。

受講者数は76名であり、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のティーム・ティーチングが実現し、受講者一人一人の課題解決に向けたきめ細かな指導が行き届くようになっている。

なお、平成29年度は、「社会(小)、生活、総合」、「道徳、特別活動」は合同班で実施された。

#### 2. 「12年研修」の新たな取組に向けて ～ 学部「養成」と現職「研修」の連携等 ～

7年前から新たな取組として、教育学部での「養成」と現職教員の「研修」との連携がある。代表者授業研究や全受講者の校内授業研究に、学部生や大学院生が参加し、共に授業について学ぶ機会が設けられ、また、教育学部4年次後期「教職実践演習」の受講生が、本授業研究に参加できるようになった。平成29年度は、学部・院生がこれらの授業研究に延べ175名参加した。

## 5.2 市民・教員等を対象とした公開講座

新潟大学では、広く地域に生涯学習の機会を提供することを目的として、毎年公開講座を開設しています。

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、本学部の特色を生かした講座を開講し、受講者から好評を博しています。

### 平成29年度 公開講座一覧

No	講座名	日程	対象	講師名	受講者数
1	楽しみながら上達する卓球教室	11月3日(金) 11月4日(土) 11月5日(日)	一般市民	教授 牛山 幸彦	64人
2	自らつくる Healthy My Life Style —「3つの8」と4色の運動の 理論と実践—	11月11日(土)	一般市民	教授 篠田 邦彦 非常勤講師 篠田 浩子	40人
3	「3つの8」と4色の運動の 理論と実践 —指導法と展開—	11月11日(土)	市民の運動指導 に関わる運動指 導者	教授 篠田 邦彦 非常勤講師 篠田 浩子	38人

## 5.3 教育委員会との連携事業

### ○ 教育委員会との連携協定

#### ・新潟県教育委員会との連携推進協議会

平成23年4月に締結した連携協定にもとづき、平成30年2月2日、新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との連携推進協議会を開催した。

新潟大学教育学部が抱える当面の課題への取り組み状況、教員採用の状況と見通し等について率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

#### ・新潟市教育委員会との教育懇談会

平成30年1月16日、新潟市教育委員会と新潟大学教育学部との教育懇談会を開催した。

新潟大学教育学部が抱える当面の課題への取り組み状況、教員採用の状況と見通し等について率直な意見交換が行われた。今後も連携・協働し、教員の資質・能力の向上に取り組むことを確認し、盛会のうちに終了した。

#### ・見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、見附市内の全ての小・中・特別支援学校13校へ出前授業「みつけこども大学」として講師を延べ13名派遣した。

#### ・三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、市内の小学校4校へ「学習支援ボランティア」を5名派遣した。

また、平成29年9月19日、三条市教育委員会と8回目となる連携協議会を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

#### ・燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、燕市教育委員会との連携事業として、「学習ボランティア」の募集を行い、市内の小学校1校及び中学校1校に対して、学習支援等として2名を派遣した。

また、市教育委員会の事業（小学校4年生～中学校3年生の希望者が参加する英語教室）に3名を派遣した。

## 5.4 委員等就任状況

### 《主な委員就任状況》

#### 新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『新潟県青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『新潟県学校保健推進協議会委員』
- 『発達障害者支援体制整備検討委員会及び特別支援教育総合推進事業運営協議会委員』
- 『指導改善研修に係る審査検討委員会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会・同ワーキングチーム会議委員』
- 『特別支援学校就労支援検討委員会委員』
- 『新潟県スポーツ推進審議会委員』
- 『新潟県立近代美術館協議会委員』
- 『県立歴史博物館評価委員』
- 『新潟県労働委員会公益委員』
- 『不登校対策検討会議委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『キャリア教育推進会議委員』
- 『外来生物対策検討委員会委員』

#### 新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
- 『第6期新潟市教育ビジョン推進委員会委員』
- 『新潟市就学支援委員会委員』
- 『新潟市環境審議会委員』
- 『新潟市景観審議会委員』
- 『新潟市文化創造推進委員会委員』
- 『新潟市美術館及び新潟市新津美術館協議会委員』
- 『新潟市里潟学術研究審査委員会委員』
- 『新潟市自殺予防対策協議会委員』
- 『新潟市教職員育成協議会委員』

『教育委員会表彰選考委員会委員』

『新潟市奨学生等選考委員会委員』

## 長岡市

『人権懇談会委員』

『長岡市就学支援委員』

『スポーツ施設指定管理者選定委員会委員』

## 燕市

『燕市障がい者自立支援協議会療育支援専門部会委員』

## 三条市・三条市教育委員会

『三条市教育事務点検評価委員』

## 佐渡市

『佐渡ジオパーク推進協議会委員』

## 新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

## 見附市教育委員会

『学校評価アドバイザー』

## 妙高市教育委員会

『妙高市歴史文化基本構想策定委員会委員』

## 出雲崎町教育委員会

『出雲崎町教育支援委員会委員』

## 国土交通省国土地理院

『平成29年度治水地形分類図の更新（北陸地区）治水地形判定委員会委員』

## 上越教育大学

『上越教育大学CST養成事業実施委員会委員』

## 独立行政法人 海洋研究開発機構

『地球掘削科学推進委員会掘削航海専門部会委員』

公益財団法人 新潟県体育協会  
『スポーツ医科学委員会委員』

公益財団法人 新潟市芸術文化振興財団  
『理事』

財団法人 會津八一記念館  
『評議員』

西日本高速道路株式会社  
『新名神高速道路大阪府自然環境保全検討委員会委員』

公益財団法人リバーフロント研究所  
『河川・海岸環境等検討委員会委員』

青森県教育委員会  
『青森県内の貝塚遺跡群重点調査委員会委員』

全国GIS技術研究会  
『「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」委員』

## 6. 国際交流

### 6.1 学部教育の国際化事業

2017年11月10日から14日まで北京師範大学珠海校および北京師範大学附属南澳実験学校、交流活動を行った。参加学生は13名、教員は7名であった。

スケジュールは以下のとおりである。10日13時に新潟空港に集合し、成田空港経由で広州に向け出発。広州には21時に到着し、バスで珠海市にある北京師範大学珠海校に向かった。到着は12時を回っていたのでその日はそのままホテルで休むことになった。翌11日は2グループに分かれ、珠海市市内観光と水族館見学を行った。12日新潟大学と北京師範大学の学生交流会を行った。参加学生は新潟大学と北京師範大学合わせて100名近くになり、大変意義深い交流活動となった。13日北京師範大学南澳実験小学校交流授業研究会、14日広州ゴルフホテルを出発し広州空港から帰国した。

交流内容は以下のとおりである。まず12日新潟大学と北京師範大学大学院学生の交流会について。新潟大学側からは学生5名が日本の流行文化（オタク文化）と伝統文化を報告した。報告内容はパワーポイントを準備し行われた。報告時間は30分である。北京師範大学側からは学生の用意した中国事情についての報告がなされた。新潟大学の報告は、オタク文化紹介の時間に教室を暗くしてダンスパフォーマンスなどが披露されたため、中国側から大きな拍手をえた。総体としては大変有意義な研究交流であり、報告しなかった院生からは来年度は報告したいなどの意見も聞かれた。

授業交流については2つのグループを作り、日本の遊びの紹介と音楽の授業北京師範大学附属南澳実験学校で展開した。子供たちの授業への参加態度は大変良く、両校の授業とも多くの教員が参加して大変盛況であった。特にグループワークを中心とした授業の展開中、子供たちの積極的な取り組みがなされていることに、机間巡視をした学生たちから「日本の子供と何ら変わる事のない子供の様子」を学習できたとの感想が聞かれた。また音楽の授業を指導した学生からは中国の子供の積極性をみとることができたという感想が聞かれた。授業終了後の検討会も多数の参加者をえて、参加者が持っている授業論や教育論、授業論など幅広い意見が出された。特に音楽の授業は大変高い評価を得た。

南澳実験学校の授業の後、交流会が行なわれた。お互い意見交換をした教員同士の交流会であったため、子供や文化・教育に関する忌憚のない意見が出され、国境を越えた教育交流がなされた。

## 6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	橋本 学	イギリス, フランス	ロンドン、パリの中心部の河川環境の調査及びデザイン資料の収集	2017/3/27	2017/4/4	共同研究「景観・環境を意識した浚渫船のデザイン研究」
教授	有川 宏幸	アメリカ合衆国	国際学会参加	2017/5/24	2017/5/30	科研費(基盤C)
教授	牛山 幸彦	ドイツ	ITTF Sports Science Congress 2017出席のため	2017/5/25	2017/6/1	寄附金 基幹的経費(研究)
教授	郷 晃	スイス	Symposium International de Sculpture de Morges(モルジュ国際彫刻シンポジウム)における彫刻制作、作品発表	2017/6/4	2017/6/22	渡航費: 基幹的経費 滞在費: 本人負担
教授	相庭 和彦	中華人民共和国	集中講義、附属学校見学他	2017/6/16	2017/6/21	本人負担
教授	小久保 美子	中華人民共和国	集中講義、附属学校見学他	2017/6/16	2017/6/21	本人負担
准教授	金子 淳嗣	中華人民共和国	集中講義、附属学校見学他	2017/6/16	2017/6/21	本人負担
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	集中講義、訪中事業打ち合わせ	2017/6/18	2017/6/21	本人負担
名誉教授	小林 昭三	イギリス, アイルランド	明治の物理学や化学教科書の著者(ロスコー・スチュワート)が活躍した英国のマンチェスター大を訪問し、歴史的遺産の探索・調査を行う。ダブリン大学のGIREP-ICPE-EPEC-2017国際会議に出席して、研究発表・交流を行う。	2017/6/28	2017/7/9	科研費(基盤(B))
准教授	足立 幸子	スペイン, アメリカ合衆国	第20回リテラー・ヨーロッパ研究大会、スペイン読書指導調査、国際リテラー学会2017年度研究大会	2017/6/30	2017/7/19	科研費(基盤(C))
准教授	志賀 隆	モンゴル	モンゴル東部の植物相調査	2017/7/8	2017/7/22	昌原大学(先方負担)
准教授	阿部 好貴	シンガポール	・CURRICULUM EVALUATION FROM THE VIEWPOINT OF MATHEMATICAL LITERACY: A CASE OF 'FUNCTIONS AND EQUATIONS III' ・NATURE OF "FUNCTIONS AND EQUATIONS" USING GEOGEBRA: FROM TWO DIFFERENT FRAMEWORKS	2017/7/15	2017/7/24	科研費(基盤(B)分担) 代表: 溝口達也, 基盤研究費
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国	科研費プロジェクトの一環としてアメリカ物理教師学会に出席、論文発表	2017/7/22	2017/7/26	科研費(基盤(B))
准教授	志賀 隆	タイ	タイ北部におけるオモダカ属植物の野外調査およびサンプルの採集	2017/8/1	2017/8/9	基幹的経費(研究)
准教授	小林 繁子	ドイツ	史・資料調査のため(出張)	2017/8/11	2017/8/22	科研費(若手(B))
准教授	一柳 智紀	カナダ	ISCAR 5th International Congress 参加および研究発表	2017/8/26	2017/9/1	科研費(若手(B))
准教授	田中 咲子	オーストリア	ウィーン大学古典考古学研究所及び三菱一号館美術館における調査	2017/9/5	2017/9/20	渡航費: プロジェクト(DNP文化振興財団) 滞在費: 本人負担
教授	麓 慎一	韓国	科学研究費挑戦的萌芽研究のための研究会の参加と史料調査	2017/9/6	2017/9/10	科研費(挑戦的萌芽)
准教授	工藤 起来	台湾	台湾に生息する社会性カバチの生態調査	2017/9/11	2017/9/15	基幹的経費(研究)

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	小林 日出至郎	ギリシャ	ホモスの運動文化に関する研究資料調査	2017/9/11	2017/9/19	科研費(基盤C)
教授	堀 竜一	中華人民共和国	第12回国際芥川龍之介学会青島大会出席及びフィールドワーク参加	2017/9/14	2017/9/19	基幹的経費(研究)
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国	日米教員養成協議会(JUSTEC)に参加し、論文発表を行う	2017/9/16	2017/9/19	科研費(挑戦的萌芽)
教授	鈴木 賢治	南アフリカ共和国	中性子・放射光による応力評価に関する国際会議にて招待講演	2017/9/17	2017/9/23	科研費(基盤C)
教授	麓 慎一	中華人民共和国	中国海洋大学におけるシンポジウムの参加	2017/9/19	2017/9/23	科研費(挑戦的萌芽)
教授	長谷川 敬三	ドイツ	等質空間上の複素幾何学的構造についての研究打ち合わせ	2017/9/20	2017/9/28	科研費(基盤C)
教授	相庭 和彦	中華人民共和国	平成29年度新潟大学教育学部国際交流事業(11月実施)に係る打ち合わせ	2017/9/20	2017/9/26	基幹的経費(教育)
教授	伊野 義博	ブータン	ブータンの民族音楽研究(掛け合い歌の調査)	2017/9/20	2017/9/28	本人負担
准教授	金子 淳嗣	中華人民共和国	平成29年度新潟大学教育学部国際交流事業(11月実施)に係る打ち合わせ	2017/9/20	2017/9/26	基幹的経費(教育)
教授	麓 慎一	アメリカ合衆国	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための資料調査と収集	2017/10/7	2017/10/15	科研費(基盤(B)海外)
准教授	山口 智子	アルゼンチン共和国	第21回国際栄養学会議への出席	2017/10/14	2017/10/22	科研費(基盤(C))
准教授	志賀 隆	韓国	2017 International Symposium of Baekdudaegan National Arboretumにおける発表および庄原大学における標本調査	2017/10/25	2017/10/30	渡航費:先方負担 滞在費:10/26~28先方負担, 10/25,28~30 基盤研究費
教授	佐藤 亮一	タイ	2017アンテナおよび伝搬に関する国際会議(ISAP2017)に出席するため	2017/10/29	2017/11/3	科研費(基盤(C)分担) 代表:白井宏
准教授	興治 文子	アメリカ合衆国	アメリカの大学における教授法および学生の意識についての調査・視察	2017/10/31	2017/11/4	科研費(基盤(B)分担) 代表:土佐幸子
名誉教授	小林 昭三	アメリカ合衆国	CIECアメリカ西海岸視察ツアー視察団に加わり、科学研究費研究の一環として米国のデジタル教科書活用教育やICT・IOT活用教育をめぐるアメリカ西海岸の最新情報や歴史的経緯等についての視察や情報交換・研究交流を行う。	2017/10/31	2017/11/4	科研費(挑戦的萌芽)
教授	佐藤 哲夫	中華人民共和国(モンゴル)	シンファト職業院にてアートプロジェクトの情報交換	2017/11/6	2017/11/9	環東アジア伝統的教養共生学長裁量コーステーション環東アジア, 基幹的経費
教授	丹治 嘉彦	中華人民共和国(モンゴル)	シンファト職業院にてアートプロジェクトの情報交換	2017/11/6	2017/11/9	環東アジア伝統的教養共生学長裁量コーステーション環東アジア, 基幹的経費
准教授	村山 敏夫	中華人民共和国	内田エネルギー財団助成研究のための調査	2017/11/6	2017/11/11	研究助成(内田エネルギー財団)
准教授	金子 淳嗣	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
准教授	杉澤 武俊	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	基幹的経費(教育)

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
教授	宮園 衛	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	基幹的経費(教育)
教授	吉澤 克彦	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/14	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
教授	伊野 義博	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/14	基幹的経費(教育)
准教授	中島 伸子	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	基幹的経費(教育)
教授	向山 恭一	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/14	基幹的経費(教育)
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	基幹的経費(教育)
教授	古田島 恵津子	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための資料調査と収集	2017/11/10	2017/11/23	科研費(基盤(B)海外)
教授	相庭 和彦	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業	2017/11/10	2017/11/15	基幹的経費(教育)
特任教授	高橋 雄一	中華人民共和国	北京師範大学珠海分校・附属学校との国際交流事業の指導	2017/11/11	2017/11/15	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)
教授	佐藤 亮一	シンガポール	2017年電磁波工学研究の進歩に関する国際会議に出席するため	2017/11/18	2017/11/24	科研費(基盤(C))
教授	堀 竜一	中華人民共和国	2017年国立高雄大学東亜語文学系国際学術研討会(シンポジウム)参加	2017/11/22	2017/11/25	渡航費:大学院現代社会文化研究科共通経費 滞在費:日本台湾交流協会
教授	丹治 嘉彦	スペイン,オランダ	スペイン(バルセロナ),オランダ(アムステルダム)景観・芸術資料調査研修	2017/11/28	2017/12/5	本人負担
准教授	足立 幸子	アメリカ合衆国	リテラー研究学会第67回年次大会への参加	2017/11/28	2017/12/3	科研費(基盤(C))
教授	牛山 幸彦	フィンランド	2017ITTFフィンランドオープン参加	2017/12/4	2017/12/12	日本学生卓球連盟
准教授	大庭 昌昭	中華人民共和国	アジア大学スポーツ交流プロジェクト	2017/12/4	2017/12/7	基幹的経費(教育)(体育共通)
准教授	杉澤 武俊	ニュージーランド	IASC-ARS NZSA 2017(国際計算機統計学会)への参加	2017/12/8	2017/12/14	科研費(基盤(C))
教授	麓 慎一	イギリス	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための調査	2018/1/15	2018/1/21	科研費(基盤(B))
准教授	小野 映介	フランス	「シリア」を利用した持続的土地・資源利用の環境地理学的研究」の発展的展開に関する打ち合わせ	2018/1/21	2018/1/29	先方負担 科研費(基盤(B)) 代表:野中健一
准教授	雲尾 周	中華人民共和国	広東省における教育局長研修に係る聞き取り調査	2018/2/1	2018/2/4	科研費(基盤(B)分担) 代表:日渡円

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰着日	費用の出所
准教授	世取山 洋介	スイス	国連子どもの権利委員会に出席し研究発表を行う。関連する研究打ち合わせを行う。	2018/2/3	2018/2/8	科研費(基盤(C))、 基幹的経費(研究)
教授	牛山 幸彦	中華人民共和国	冰雪スポーツ研究に関する打ち合わせ	2018/2/9	2018/2/12	渡航費:基幹的経費 滞在費:哈爾濱商業大学
准教授	田中 咲子	オーストリア	第17回オーストリア考古学会(ザルツブルグ大学)参加、及びミュンヘン国立古代彫刻館等における調査	2018/2/26	2018/3/5	研究助成(DNP文化振興財団)、基幹的経費
教授	麓 慎一	ロシア	科学研究費補助金基盤研究B(海外)のための調査と資料収集	2018/3/3	2018/3/11	科研費(基盤(B)海外)
准教授	小野 映介	ジンバブエ	科研課題に関する現地調査	2018/3/11	2018/3/16	先方負担 科研費(基盤(B)) 代表:野中健一
准教授	橋本 学	中華人民共和国	シンファツ職業院にてアートプロジェクトの情報交換	2018/3/13	2018/3/16	環東アジア伝統的教養 共生学長裁量コアステーション環東アジア、基幹的 経費
教授	佐藤 哲夫	中華人民共和国	シンファツ職業院にてアートプロジェクトの情報交換	2018/3/13	2018/3/16	環東アジア伝統的教養 共生学長裁量コアステーション環東アジア、基幹的 経費
教授	丹治 嘉彦	中華人民共和国	シンファツ職業院にてアートプロジェクトの情報交換	2018/3/13	2018/3/16	環東アジア伝統的教養 共生学長裁量コアステーション環東アジア、基幹的 経費
教授	土佐 幸子	アメリカ合衆国	Washington State Universityを訪問し、初年次物理講義を参観し、アクティブラーニング実践と課題についてTomsovic教授とディスカッションを行う。また、ハンズオン展示の見学のためシアトルの科学館を訪問する。	2018/3/17	2018/3/22	科研費(基盤(B))
教授	宮園 衛	中華人民共和国	北京師範大学実験小学校との国際交流事業	2018/3/28	2018/3/31	大学運営経費(環東アジア地域教育研究拠点形成)

## 7. 附属施設の活動

### 7.1 附属新潟小学校

#### (1) 特色ある活動

##### ① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題を「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」と改め、新学習指導要領の方向性を実現しようと、教育課程のカリキュラム・マネジメントを推進した。並行して、指定研究授業（18回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から2,000名を越える参加者が集う2月開催の初等教育研究会において公開している。「学習スキル」、「学級力」、ICTを含む「ツール活用能力の育成」は、附属新潟小学校が全国に先駆けて発信しているもので、各学校においても活用されている。また、「研究紀要第75集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（N-port）」（年1回発行）等において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

##### ② 教育実習生の受入と指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受入は次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生16名、5月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生75名、9月4日～8日）
- c. 春期教育実習（新潟大学教育学部3・4年生 30名、別科生 2名、新潟医療福祉大学 1名、新潟県立大学 2名、國學院大學 1名 6月5日～16日）
- d. 秋期教育実習（新潟大学教育学部3・4年生 29名、別科生 2名、日本女子大学 1名、皇學館大学 1名 10月23日～11月2日）

##### ③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

- a. 小中9か年を見通した教育活動
  - ・これからの社会で必要な資質・能力の育成について、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を図る。
- b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動
  - ・ペアシステムによる小学校低・中・高学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
  - ・文化祭（附属アートミュージアム）での特別支援学校生徒作品の展示。
  - ・小・中の教職員が合同で職員研修会を実施。
  - ・特別支援学校の高等部の生徒による校内環境整備の実施。
  - ・三校合同ミサイルに対応する避難訓練の実施
- c. 異文化交流活動
  - ・平成29年 5月31日(水)～6月2日(金) 訪日  
新潟大学教育学部が交流協定を結んでいる北京師範大実験小学から3名の教員と14名の児童

が来校。授業に参加し、互いの文化交流及び教育研究交流を行った。

- ・平成29年 11月訪中

校長及び副校長が、新潟大学の訪問団の一団として交流協定を結んでいる北京師範大学実験小学珠海分校等を訪問。各教科・領域の授業視察を行った。

- ・平成30年 3月28日(水)～31日(土)訪中

北京師範大実験小学へ、校長、副校長、教諭3名、5年生児童6名、保護者6名、そして父母教師会役員2名が訪問した。児童同士の国際文化交流、教職員の教育フォーラムを開催し、英語教育及び音楽をはじめとする芸術教育に関する協議を行った。

#### ④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・道徳や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。また、食に関する教科等横断的な学習単元を開発した。さらに、初等教育研究会において栄養教諭による授業を公開し、研究協議会を開催した。

- ・児童会、給食委員会活動を活用し、給食時間を充実するための取組を行った。

- ・児童会保健委員会と連携して、感染予防等の啓発活動を行った。

- ・体育や特別活動等の時間を活用して、養護教諭の協力を得て学級担任が授業を実施した。

- ・附属新潟中学校の保健委員会の生徒と連携し、熱中症予防の啓発活動を行った。

- ・秋季歯科健診の際、養護教諭特別別科の実習の取組の一つとして、健診の事後保健指導を行った。

- ・初等教育研究会において、養護教諭による「病気の予防」の授業を公開し、研究協議会を開催した。

- ・今年度の実習受入は次のとおりであった。

a. 医療福祉大学観察実習（8名）

b. 春季健康診断実習（別科 39名）

c. 秋季健康診断実習（歯科 19名）

#### ⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会、新潟県書初大会、新大全国書初大会など各種大会入賞多数

- ・新潟県課題図書読書感想文コンクール最優秀賞受賞ほか入賞者多数

- ・第67回全国小・中学校作文コンクール読売新聞社入賞者多数

- ・明るい家庭づくり運動に関する作文入賞者多数

- ・2018交通安全標語コンクール入賞者多数

- ・第23回宮柵二記念館全国短歌大会入賞者多数

- ・第8回一緒に読もう！新聞コンクール(新潟県NIE推進協議会)入賞者多数

- ・第53回新潟市児童・生徒科学研究発表会発表者多数

- ・第64回新潟市小・中学校理科作品展優秀賞受賞 他入賞者多数

- ・第50回ジュニア展、第14回新潟教育アート展など入賞者多数

#### ⑥ その他

- ・教員免許状更新講習会の実施

- ・当校教員の学部授業への参加：10名34回

- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：11名47回

- ・教員研修の受入：初任者研修，国際こども・福祉カレッジ，新潟医療福祉大観察参加実習
- ・視察受け入れ：国内13回

(茨木，長野，福島，愛知，鳥取，広島，東京，千葉，大阪，静岡，神奈川より)  
 国外1回（北京）

## (2) 研究会，講演会の開催

### ① 平成29年度附属新潟小学校中間検討会

- 日時 平成29年9月29日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」
- 内容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明，協議，指導等）
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約90名

### ② 平成29年度初等教育研究会

- 日時 平成30年2月8日（木）・9日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」
- 内容 CCT・公開授業・全体会・シェアリングタイム・フォーラム・講演会  
 フォーラム1「協働性フォーラム」：  
 講師 新潟大学教育学部 准教授 一柳 智紀  
 フォーラム2「ツール活用能力フォーラム」：  
 講師 東北大学大学院情報科学科 教授 堀田 龍也  
 フォーラム3「カリキュラム・マネジメントフォーラム」  
 講演会I「これからの授業づくり講演会」：  
 講師 國學院大學人間開発部初等教育学科 准教授 寺本 貴啓  
 講演会II「これからの教育課程講演会」：  
 講師 千葉大学教育学部 特任教授 天笠 茂
- 参加者 学部教員，県・市教育委員会指導主事，県内・県外の教員等，合計約1,300名  
 （延べ約2,000人）

## (3) 研究報告等

### ① 紀要・研究誌等

- 『研究紀要 第75集 豊かに考える子どもを育む教育課程の実現』（年1回発行）
- 『授業の研究（N-report）』（第200号：年1回発行）  
 テーマ「豊かに考える子どもを育む教育課程の実現」  
 特集「これからの社会を生きる子どもを育む」

### ② 教員の著書・論文・研究発表

- ・長谷川由紀 「研究プロジェクト 学校保健に働きかける力－養護教諭からの発信－分科会B」  
 （研究集録第52集）日本教育大学協会養護教諭部会・全国国立大学附属学校連盟  
 養護教諭部会（2018，3）

- ・三星 雄大 “カリキュラム・マネジメント入門「深い学び」の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション 職員の間をつなぐ” 東洋館出版社 2017. 3. 1
- ・三星 雄大 『学校教育』 年間の生活科を絵本でつなぐ 広島大学附属小学校 (2017. 12)
- ・劔 仁美 道徳ジャーナル 学研教育 みらい (2018. 1)
- ・劔 仁美 みんなの道徳 指導書 学研教育 みらい (2018. 4)
- ・劔 仁美 みんなの道徳 教材「復興への願い 長岡花火」学研教育 みらい (2020. 4)
- ・竹内 義雄 初等理科教育・身の回りの自然観察 初等理科教育研究会 (2018. 4)
- ・竹内 義雄 理科の教育・「中堅教員の学びの地図」 東洋館出版 (2018. 4)
- ・梅津 祐介 算数科深い学びを実現させる理論と実践・倍数と約数 東洋館出版社 (2017. 12)
- ・志田 倫明 算数授業研究vol113 東洋館出版社 (2017. 11)
- ・志田 倫明 算数授業研究vol114 東洋館出版社 (2018. 1)

## 7.2 附属新潟中学校

### (1) 特色ある教育活動

#### ① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

実践研究「豊かな対話を求め、確かな学びに向かう生徒を育む授業」の推進

#### ア 研究の内容

今年度、各教科等の授業において「見方・考え方」を働かせるために有効な手だては何か、資質・能力を育成し、自らの学びを価値付けるために有効な手だては何か、について実践研究を行った。

<重点的に取り組んだこと>

- 「各教科等の授業において「見方・考え方」を働かせるために有効な手だて」に関わって「豊かな対話を求め、確かな学びに向かう生徒を育む授業」の構想  
→ 確かな学びに向かう生徒を育むために、3つの重点「意味ある文脈での課題設定」「対話を促す工夫」「学びの再構成を促す工夫」を設定した。
- 「資質・能力を育成し、自らの学びを価値付けるために有効な手だて」に関わって  
→ カリキュラム・マネジメントの視点から、各教科等で働かせた「見方・考え方」から教科等横断的な資質・能力を育成するための「生き方・学び方」の時間を設定した。

<明らかになった授業づくりの視点>

#### (1) 意味ある文脈での課題設定

- 生徒の提案、作品などが社会や実生活の問題の解決に関連し、社会参画につながるようにすること
  - ・ 生徒の住む地域の今日的課題（少子化、地域の活性化など）を解決するために、教材がもつ魅力を生かした提案などを生徒が考案する
  - ・ 生徒の身近な人の困り感や要望に応えるために、教材を介して生徒が提案などを考える
  - ・ 学校行事で改善すべき活動や取組を、教材を介して生徒が実際に試行する
- 社会や実生活の中で、学習内容を実際に活用できる実感につながるようにすること
  - ・ 身のまわりの事象・現象などの仕組みを、学習内容を活用して解明する
  - ・ 身のまわりの事象・現象などに関するものを学習内容を活用して実際に制作、創作する
- 現実の専門分野の知識・技能と結びつける事象やモデル提示
  - ・ 教材の魅力を感じられるようなゲストティーチャーによる実技、実演を鑑賞する
  - ・ なりたい姿として憧れを抱けるようなプロのモデル、先輩のモデルなどに触れる
- 芸術作品の作者の思い、時代背景を象徴する資料の提示
  - ・ 表現や鑑賞の幅を広げるために、資料を活用する
- 一つの事象の解き方を、他の事象に当てはめて考え、新たな問いが生じる事象の提示
  - ・ 様々な知識や情報を関連付けて、一つの概念につながるようにする

#### (2) 対話を促す工夫

- 課題の質（意味ある文脈での課題設定）
- 目的、観点、論点などの明確化
- 目的、観点、論点などに整合した考えの根拠の可視化

- 他者との考えのずれに触れるために、目的が同じ者同士や、考えやその根拠が違う者同士のグループ編成
- モニタリングとコントロールを促し、自らの考えを客観的に分析できる環境整備

(3) 学びの再構成を促す工夫

- 学習内容と自己の成長とを関連付けること
- 学習内容と生徒の実生活とを関連付けること

イ 成果と課題

<成果>

- 生徒の資質・能力を発揮させるためには、教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」を、働かせることが有効であること。その具体的な手だてとして、「意味ある文脈での課題設定」「対話を促す工夫」「学びの再構成を促す工夫」を教科等で明らかにできたこと。

<課題>

- 各教科の授業で生徒が課題解決過程で発揮した資質・能力の高まりを実感できたかどうかまで検証することができなかったこと。今後は、生徒が資質・能力の発揮だけではなく、資質・能力の高まりを実感できる評価方法の工夫が必要である。

② 学部・教職大学院と連携した活動

a. 学校インターンシップの受け入れ

今年度は実施しなかった。

b. 学部・教職大学院教員および学生との共同研究

今年度は実施しなかった。

c. 研究会等における学部・教職大学院教員との連携の強化

ア、春の授業研究会では、協議会において、12名の教育学部・教職大学院教員からご指導をいただいた。

イ、秋の授業研究会では、協議会において、12名の教育学部・教職大学院教員からご指導をいただいた。

d. 学生によるボランティア

学習：生徒の基礎学力定着のために、教育学部より2名の学習ボランティアが、週1日程度、放課後の時間帯を使い、活動した。

保健室：保健室の業務を円滑に進めるために、医学部保健学科より9名の保健室ボランティアが、年間9回、活動した。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

・11月21日（火）に、附属新潟小学校、附属特別支援学校と合同で、Jアラート対応の訓練を実施した。

(2) 教育実習

① 期日、受入人数

- a. 春期教育実習            6月5日（月）～6月16日（金）    19人（うち母校実習1人）
- b. 2年次観察実習        9月4日（月）～9月8日（金）    108人
- c. 秋期教育実習         10月23日（月）～11月2日（木）   23人

d. 1年次入門実習 年間3回合計3日間 12人

② 特色ある実習内容

- a. 春期教育実習，秋期教育実習において，道徳の指導案を作成し，学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- b. 2年次観察実習において，同一敷地内にある附属新潟小学校の授業を参観する機会をもった。

(3) 研究会，講演会等の実施

① 授業研究会（会場：附属新潟中学校）

（研究主題「豊かな対話を求め，確かな学びに向かう生徒を育む授業」）

- a. 5月～7月（各教科・領域で日時を設定）に，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間の各教科・領域において，授業研究を行い，教育学部・教職大学院教員，行政関係者から，ご指導いただいた。また，公立校・私立校の教員も授業を参観し，協議会に参加した。（合計106人）
- b. 9月27日（水）に，国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間の各教科・領域において，教育学部・教職大学院教員，行政関係者，公立校の教員とともに，中学校教育研究発表会に向けて，授業案の検討を行った。

② 平成29年度中学校教育研究発表会（会場：附属新潟中学校）

（研究主題「豊かな対話を求め，確かな学びに向かう生徒を育む授業」）

- a. 期 日 10月23日（月）
- b. 内 容 授業公開（国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術・家庭，英語，特別活動，道徳，総合的な学習の時間）  
授業協議会
- c. 参会者 教育学部・教職大学院教員，行政関係者（県・市教育委員会指導主事），県内外  
教員・学生 他 合計540人

③ その他

- a. 初任者研修授業研修協力校
  - ア，期 日 6月13日（火）
  - イ，参加者 下越教育事務所管内初任者（中学校15人，特別支援学校4人）  
下越教育事務所指導主事，当校職員
  - ウ，内 容 授業公開（各教科，道徳），協議会，講話
- b. 学校視察の受け入れ
  - ・ベネッセ教育総合研究所 1名 11月28日
  - ・福岡県広川市小中校長会 4名 12月14日
  - ・埼玉県鴻巣市立川里中学校 1名 2月13日
  - ・沼津市立沼津高等学校中等部 1名 2月6日

(4) 研究報告等

① 研究誌

- a. 書籍 附属新潟中式 「3つの重点」を生かした確かな学びを促す授業

～教科独自の眼鏡を育むことが「主体的・対話的で深い学び」の鍵となる！～

(東信堂)

b. 公開授業案 (10月23日発行)

② 研究成果の発信

a. 「VIEW 21」教育委員会版 2017年度 vol. 4 (ベネッセ教育総合研究所)

《アクティブ・ラーニング実践講座》

教科を超えて学びの成果を関連づけ、生徒自身の「見方・考え方」に昇華させる

b. 日本教育新聞 (2月19日付) の書評

『新潟大学教育学部附属新潟中学編著 『附属新潟中式「3つの重点」生かした確かな学びを促す授業』

## 7.3 附属特別支援学校

### 1. 特色ある活動

#### (1) 連携・交流活動

##### 【新潟地区附属三校等交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：
  - ・小学部1,2年生児童と附属新潟小学校低学年複式学級児童（授業交流）
  - 小学部3,4年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級
  - 小学部5,6年生児童と附属新潟小学校高学年複式学級
  - 中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部5,6年生児童と新潟市立新潟小学校特別支援学級児童（授業交流）

##### 【発達障害児教育】

- ・学部特別支援教育専修と新潟市教育委員会特別支援教育担当指導主事とともに研究授業協議会の実施
- ・新潟市内小・中学校への支援会議の参加 28校延べ80回

##### 【学部・大学院との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回，延べ6人
- ・教員免許状更新講習に，管理職のほかにゲストスピーカーとして教諭1人参加
- ・大学院の教員養成実地指導講師として副校長，教諭2人参加
- ・学生ボランティアの登録：登録33人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会24人，特別支援教育研究会32人  
すなやま祭38人，学部・学級行事17人

##### 【学生との連携・交流活動】

- ・中，高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援，会場提供：月1回程度開催
- ・保護者有志が教育学部学生や院生と連携して運営する放課後活動（アフタースクール）への支援，会場提供：月3回程度実施，研究会，40周年記念式典（すなやま祭）での発表と作品展示

##### 【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

##### 【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。  
（8月19日開催。高等部生徒30，卒業生70，卒業生保護者31，旧職員6人，現職員30人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。  
学校行事「40周年記念式典（すなやま祭）」開催日に併せて設定  
（1月27日開催。卒業生64人，卒業生保護者33人参加）

##### 【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ぽっぷこーんクラブ（すなやまの家を会場に提供）  
延べ約2,900人利用

#### (2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

##### 【発達障害通級指導教室の開設】

- ・通級指導教室：新潟市内小・中学生34人週1回定期支援，2人不定期支援
- ・教育相談：不定期は多数

- ・研修支援：小・中・高等学校職員対象の研修，他県（沖縄，大阪）からの視察・相談の受け入れ

### 【教育相談・支援活動】

#### ○研究会・研修会講師等

- ・西蒲・燕郡市中学校教育研究会研修講師 関原 一成
- ・阿賀野市教委員会主催研修会講師 岡田 義則
- ・県立教育センター研修会講師 齊藤 文一
- ・県初任者研修講師 唐沢 百合花

### (3) 実習生・研修生の受け入れ

#### 【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生10人（5月27日，8月18日，9月13日）
- ・教育実習生の受入（春期：26人 秋期：26人）
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：37人（11月10日）
- ・介護等体験生の受入（年間10回，合計317人）

#### 【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（6月27日 19人）

### (4) 学校行事等

#### 【学校行事】

- ・運動会
- ・すなやま祭（学習発表会）
- ・職場実習等（高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定）
- ・修学旅行（中学部3年生：東京方面 高等部3年生：関西方面）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・親子工作教室（小学部PTA）
- ・親子陶芸体験（中学部PTA）
- ・スキー・そり教室（全学部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

#### 【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校7校PTA懇談会参加
- ・全附属北信越地区研修会金沢大会特別支援学校部会参加

#### 【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

## 2 研究会等の開催

### 研究会

- ・第40回特別支援教育研究会（12月1日開催）

研究主題：子供が学びを深める姿をめざした授業づくり（第4年次）

～前単元・題材等における「子供なりの価値」や有効な支援を生かして～

参加者数：495名

## 7.4 附属幼稚園

### (1) 特色ある活動

#### ① 幼小中一貫教育カリキュラムを踏まえた幼児教育研究の推進

教育目標「友だちいっぱい 夢いっぱい 元気で遊ぶ 附属の子」のもと、遊びや環境、様々な経験を通して自分で学びとっていくことを重視する教育活動を重視している。また子供の思いに心を寄せ、様々な芽ばえを子供自ら伸ばしていくよう導く保育展開を大切にしている。

附属長岡校園では、今年度より「新たな世界を創り出す子供」を求め、そのために、子供の学びを「三つの側面」（認知的側面、社会的側面、実践的な側面）に関わり資質・能力の働きを深化・拡充させる統合的な学びの実現をめざしている。また、文部科学省の研究開発指定を受け、新領域「いのち」を中心とした教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発に取り組んでいる。幼児期の発達段階を踏まえ、こうした12か年一貫教育における幼児教育について実践研究を進めている。

#### ② 教育実習生等の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a 入門教育実習 ( 36名)
- b 春期教育実習 ( 6名)
- c 観察参加実習 ( 140名)
- d 秋期教育実習 ( 3名)
- e 他大学の教育実習 ( 0名)

#### ③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。

行事では、「幼・小・中合同大運動会」や「校園合同避難訓練」を行っている。

- a 幼児と児童の遊びの交流(自由交流日)
- b 観客型連携による相互訪問
- c 中学生の保育参観、遊びの紹介
- d 園児の小学1・2年生との交流活動
- e 研究授業・保育の相互参観
- f 授業・保育交流

#### ④ 学部との連携

- a 教育研究協議会での公開保育・協議会や園内研究保育にかかわり、学部教員からの指導・助言を受ける。
- b 校園合同研究にかかわる実態アンケート等の集約・評価における連携

#### ⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

\*新潟県幼稚園等新規採用教員研修会(29名 11月29日～30日)

⑦ 楽しい園行事

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 4月：こんにちはの会              | 11月：作品展                |
| 5月：交通安全教室               | 12月：餅つき大会              |
| 6月：プール開き<br>家族参加日（土曜参観） | 1月：お正月お楽しみ抽選会<br>かるた大会 |
| 7月：七夕飾り付け               |                        |
| 2月：豆まき会                 |                        |
| 9月：校舎合同運動会<br>秋の交通安全教室  | 3月：ありがとうの会（お別れ会）       |
| 10月：悠久山探検遠足             |                        |

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成29年度教育研究協議会

- ア 開催日 平成29年6月1日（木） 幼・小・中合同教育研究協議会  
イ 会場 附属長岡校舎各教室・保育室・体育館等  
ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、二つの講演会を開催する。

〈講演会① 於 附属長岡中学校体育館〉

講師 東京大学大学院研究科  
教育学部教授 秋田喜代美 様

演題 「統合的な学びのための授業を考える」

〈講演会② 於 附属長岡小学校体育館〉

講師 東洋大学食環境科学部教授 後藤 顕一 様  
演題 「求められる資質・能力とこれからの学び」

※ 講演会①②は、同時開催。参加者が選択して聴講。

② 幼稚園視察等の受入

県内幼稚園新採用教員 新採用教員を14名受け入れ（11月）

## 7.5 附属長岡小学校

### (1) 特色ある活動

#### ① 初等教育研究の推進

平成22年度から7年間、文部科学省研究開発指定を受け、「『社会的な知性』を培うための幼・小・中一貫教育による知の循環型教育システムの研究開発」に取り組んだ。

幼・小・中12年間で五つの「ステージ」に構成し、各教科等と新設教科「社会創造科」に「協働型学習」を位置付けた一貫カリキュラムを開発し、知の循環型教育システムを構築・提案した。

平成29年度から4年間、新たに文部科学省研究開発指定を受けた。研究開発課題は、「知識や情報等を結び付け、多様な「生命」のつながりを発展させたり、「生命」の基盤となる「安全」な社会を実現したりする資質や能力をはぐくむための、新領域『いのち』を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発」である。

主な研究の内容は、次のとおりである。

ア 認知的・社会的・実践的資質・能力をはぐくむために、新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの開発。

イ 新領域「いのち」の学習内容を「生命」とその基盤である「安全」とし、幼小中12年間で貫いた系統的な学習内容の整備。

これらのことを課題として研究を進め、6月1日の教育研究協議会で発表した。また、年間を通して、継続的に授業研究を行いカリキュラム改善につなげた。



1年 算数



4年 外国語活動



5年 「いのち」

#### ② 教育実習生の受け入れと指導

- |   |         |             |          |         |        |
|---|---------|-------------|----------|---------|--------|
| a | 入門教育実習① | サマースクール     | (1年生12名) | 6月22日～  | 6月23日) |
|   | 入門教育実習② | 栖吉川フェスティバル  | (1年生12名) | 6月29日)  |        |
| b | 観察参加実習  |             | (2年生60名) | 9月4日～   | 9月8日)  |
| c | 春期教育実習  | (3・4年生及び別科生 | 24名)     | 6月5日～   | 6月16日) |
| d | 秋期教育実習  | (3・4年生及び別科生 | 24名)     | 10月23日～ | 11月2日) |

#### ③ 連携理念に基づく教育活動

- a 長岡地区3校園による学校行事等の連携

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年2回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

また、新潟大学危機管理本部危機管理室から2回にわたって、避難訓練の指導を受けた。

- b 学部生による指導補助

4・5・6年児童が体育科の学生2名から8回にわたって体操の指導を受け、成果を12月2日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。

c 5年生の親子大学訪問

6月13日（火），大学の協力を得て，キャリア教育の一環として実施し，他学部で講義を受けた。（教育学部，理学部，工学部，農学部，災害復興科学研究所）保護者の参加率（98%）が非常に高く，毎年参加者から好評を得ている。



④ 教育機関への協力

a 県教育委員会等への協力

- ・小・中学校の初任者研修協力校として，提案授業及び授業協議会を開催した。  
（6月：「道徳」・算数 小学校初任者12名，9月：保健教育 養護教諭初任者7名）
- ・免許状更新講習会の指導者・ゲストスピーカーとして協力した。（副校長，主幹教諭）
- ・日本スポーツ振興センター 学校安全資料作成のための調査研究事業委員
- ・日本科学技術振興財団 放射線に関する教職員セミナーWG委員

b 長岡市教育委員会・見附市教育委員会・三条市教育委員会・小千谷市教育委員会等への協力

- ・長岡市教育委員会の市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート錬成熟」の事業に協力した。（音楽，体育，学級活動）
- ・教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき，長岡市教育センター主催の研修講座に講師として協力した。（「道徳」，生活，算数，音楽，健康教育）
- ・見附市教育委員会主催の出前研修講座の講師として協力した。（外国語活動，「道徳」）
- ・三条市教育委員会の小中一貫教育推進委員として協力した。（小中一貫推進委員1名）
- ・小千谷市教育研究会主催の出前研修授業の講師として協力した。（「道徳」）
- ・新発田市教育委員会主催の防災キャンプ事業の講師として協力した。
- ・燕市教育委員会主催の防災教育研修会の講師として協力した。
- ・新潟県防災教育研修会の講師として協力した。

c 公立学校等との連携

○校内研修等指導者として派遣

- ・見附市立葛巻小学校 （算数1名）
- ・十日町市立千手小学校 （人権，同和教育1名）
- ・長岡市立信条小学校 （人権，同和教育1名）
- ・長岡市立宮本小学校 （「道徳」1名）
- ・長岡市立柿小学校 （「道徳」1名）

○研究視察受け入れ 2件6名

- ・群馬県中之条町議会総務文教委員会（8名）
- ・群馬県中之条町教育委員会（7名）

d 北陸福祉保育専門学院生徒への授業公開・協議会

- ・子ども未来学科・福祉保育学科4年生 5名対象 全12学級授業公開
- ・子ども未来学科・福祉保育学科3年生 13名対象 国語2学級授業公開

⑤ 中国との交流

a 北京師範大学南奥実験学校訪日団との交流・研修（12名来校）

○6月1日（木） 附属長岡校園研究協議会視察

○6月2日（金） 附属長岡校園との交流研修

- ・中国の教師による授業公開（国語，体育）
- ・歓迎交流会
- ・給食交流
- ・附属長岡校園職員との研修交流



北京師範大学南奥実験学校訪日団との交流・研修

b 北京師範大学南奥実験学校，惠州附属学校等視察

- ・11月11日（土）～15日（水） 松井 謙太副校長 他 教諭2名
- ・中国での授業公開（国語，外国語活動）
- ・北京師範大学珠海分校での講演



北京師範大学南奥実験学校，惠州附属学校等視察

⑥ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに，学級活動や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a 食に関する個別的な対応の取組

- ・食への興味を引き出す「パクコン通信」（食育に関する質問箱）の運用により，児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b 栄養教諭による講話等

- ・毎月1回，中学生への食育講話

- ・毎日の「食育新聞」の発行（小学校・中学校に掲示）
- ・学校ホームページブログでの給食レシピの紹介（毎食）
- ・学級担任への食育資料提供
- ・小学校，幼稚園の給食試食会での保護者への講話
- ・教育実習生（別科生）への講話
- ・食育標語の募集と表彰

## (2) 研究会，講演会等の開催

### ① 平成29年度教育研究協議会事前打合せ

- a 日 時 2017年5月12日（金）
- b 会 場 附属長岡小学校
- c テーマ 「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ」（第1年次研究）
- d 内 容 分科会（研究概要の説明，研究会単元の検討，研究会の日程と役割分担）
- e 参加 指導者，司会者，研究協力者

### ② 平成29年度教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a 日 時 2017年6月1日（木）
- b 会 場 附属長岡校園（幼稚園，小学校，中学校）
- c テーマ 「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ」  
—「統合的な学び」の実現を通して—（第1年次研究）
- d 内 容 全教科等の授業公開，授業協議会および教育講演会
  - (1) 「統合的な学び」の設計
    - ・各教科等における「求める子供」と「統合的な学び」の設定
    - ・「統合的な学び」を実現する手だての構想
  - (2) 新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発
    - 授業 ・「統合的な学び」を実現するための手だて
      - ・新領域「いのち」
    - 講演
      - ・東京大学大学院教育学研究科 教育学部教授 秋田 喜代美 氏  
演題「統合的な学びのための授業を考える」
      - ・東洋大学 食環境科学部教授 後藤 顕一 氏  
演題「求められる資質・能力とこれからの学び」
- e 参加者 県内外の教員，学生，学部教員，県・市町村教育委員会指導主事，当校教員等  
約1200名の参加者

### ③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催 北信越地区総会・実践活動協議会 松本大会

- a 日 時 2017年10月5日（木）副校長会（市内巡検，研修会・協議会等）  
10月6日（金）教育活動・授業公開，協議会，全体会・総会等
- b 会 場 信州大学教育学部附属松本学校園（小学校，中学校，特別支援学校）
- c テーマ 「附属学校園のあるべき姿を考える」  
～地域教育の発展と地域に生きる附属学校園のありかた～
- d 内 容 保育・授業公開，協議会および全体会・総会，情報交換会・懇親会

e 参加者 約300名 \*校長, 副校長, 教諭, P T A同心役員等参加

### (3) 研究報告等

#### ① 紀要

- ・『研究紀要 新たな世界を創り出す子供をはぐくむ  
－「統合的な学び」の実現を通して－ 第1年次研究』（年1回発行）

#### ② 文部科学省研究開発指定 研究開発実施報告書

- ・『平成29年度 研究開発実施報告書・第1年次』

##### 研究開発課題

知識や情報等を結び付け, 多様な「生命」のつながりを発展させたり, 「生命」の基盤となる「安全」な社会を実現したりする資質や能力をはぐくむための, 新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発

#### ③ 教員の著書・論文・研究発表等

- ・『授業力&学級経営力』2017.4月号(明治図書) 畠山 明大 教諭
- ・『新しい算数教育』(東洋館) 笠原 知明 教諭
- ・『小三教育技術』2017.9月号(小学館) 畠山 明大 教諭
- ・『小三教育技術』2017.11月号(小学館) 畠山 明大 教諭
- ・『楽しい体育の授業』(明治図書) 酒井 哲央 教諭
- ・『日本道德学会新潟支部会報』 瀬下 圭太郎 教諭
- ・『子どもが追求する社会科第5集』(中越社会科研究会) 田中 辰弥 教諭, 倉石 智幸 教諭

### (4) その他

#### ① 危機管理に対する活動

- a 大規模災害を想定した引き渡し訓練(4年目)
  - ・緊急時対応マニュアルの修正・配付
  - ・体育館での児童引き渡し訓練の実施
- b 緊急メール配信システムの整備
- c インストラクターによる全学年着衣泳指導

#### ② 保護者ボランティアによる学校支援

- ・読み聞かせ, 本の修繕, 生け花, 花壇整備, 自習, 校外学習, ミシン, 水泳, スキーの9つで, 延べ164人が登録。  
児童の安全安心のために教育活動を支援

#### ③ 附属長岡小学校児童クラブの開設

- ・長岡市教育委員会と連携し, 小学校2階に児童クラブを開設。  
運営は長岡市教育委員会が行う

#### ④ J R長岡駅と連携した電車の交通安全教室の実施

- ・6月28日(水)「電車利用時のマナー等学習会」(J R長岡駅職員8名)
- ・11月20日(月)「冬期間における電車の安全指導」(J R長岡駅職員7名)

#### ⑤ P T A組織の活性化

- a P T A同心役員納涼会の開催

b 校園スポーツ交流会（インディアカ）の開催

⑥ 教育環境の整備

a 体育館床面修繕工事

b 無線W i - F i 中継器の増設



体育館での児童引き渡し訓練



インストラクターによる着衣泳



長岡駅職員による電車交通安全教室

## 7.6 附属長岡中学校

### 1. 教育研究

平成29年度は、新たに『新領域「いのち」を中心とした各教科・領域横断型の幼小中一貫カリキュラムの研究開発』を課題として文部科学省から研究開発指定を受け、その実施に取り組んだ。求める子供像として「よりよい社会を目指して、納得解や最適解を求め続ける子供」を掲げ、資質・能力として「学びをいかす力」（認知的側面）、「他とよりよくなかかわる力」（社会的側面）、そして「自己を見つめ、自ら行動する力」（実践的側面）の3つを掲げ、カリキュラム開発と実践、効果検証を行った。「いのち」の学習に関して、生徒に質問紙調査を行ったところ、「他の人たちと助け合い、一緒に活動することができる」という協働する力や、「いろいろな考え方の人と接して多くのことを学びたい」という探究心を問う項目において肯定的評価が高かった。これは平成28年度までの研究で、「協働型学習」を推進してきたことが、生徒の資質・能力として、また、教員の指導力として定着している表れだと言えよう。

今後は、第2年次以降の研究計画を進めると共に、カリキュラム開発の効果を明確に示すことができるようなデータ収集・分析を行う。また、「いのち」という文脈をもった研究テーマ設定の強みをいかし、学習を進める中で、「先を見通す力」や「自己を見つめる態度」など肯定的評価が比較的低かった項目について、丁

### 2. 教育研究協議会

平成29年6月1日（木）に附属長岡校園（幼小中）を会場とし、「新たな世界を創り出す子供をはぐくむ―「統合的な学び」の実現を通して―」をテーマとして教育研究協議会が開催された。新領域「いのち」、および各教科で公開授業が行われた。また、東京大学の秋田喜代美教授が「統合的な学びのための授業を考える」の演題で、また東洋大学の後藤顕一教授が「求められる資質・能力とこれからの学び」を演題として講演を行った。参加者は、県内外教員、学生、学部教員、教育委員会指導主事、北京師範大学南奥実験校等、校園全体で1,187名（うち中学校344名）を数え、県内外のモデル校の役割を果たしていることを示した。



研究協議会における理科授業の様子（H29年6月）

### 3. 地域教育委員会、大学との連携を図った教員研修・教員養成への協力

- (1) 長岡市内の現職教員の指導力向上を目的とした「教員サポート錬成塾事業」や市教育センター主催研修講座、および中越地区の教員研修会に対し、国、数、理、英、社、音、美、技術家庭、保体の教科において計34回の講師派遣を行った。また、授業公開を23回（全教科、中間検討会含む）行った。
- (2) 大学と現職教員研修に協力：教員免許更新講習において、大学教員と連携し、本年度の研究主題である「統合的な学びの実現」を取り上げ、ゲストスピーカーとして教員2名を派遣した。
- (3) 大学からの教育実習生受け入れ：教育学部のみならず、他学部からも実習生を受け入れ、指導を行った（本実習：春期30名、秋期25名、2年次観察・参加実習80名、1年次入門教育実習35名）。

### 4. グローバル人材の育成

- (1) 新潟大学留学生による英語授業協力を4回行い、21名の留学生が参加した。また、留学生2名が生徒の家庭にホームステイを行った。
- (2) 7月に数学ナビゲーターの桜井進氏、11月に戦場カメラマン渡部陽一氏を講師として招き、親子で聞く講演会を開催した。
- (3) 8月の長岡まつりにおいて、3年生のグループが外国人向けの案内所を設置する活動を行った。

## 8. 外部資金

### 8.1 科学研究費助成事業

科学研究費補助金は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。また、本学部所属の技術職員も積極的に「奨励研究」への申請を行っている。

平成29年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研 究 課 題 名
27	基盤研究 (B)	小林 昭 三	明治理数授業筆記の網羅的探索とその真相・価値を解明して現代的に魅らせる包括的研究
27	基盤研究 (B)	土 佐 幸 子	日米6大学連携で能動的学習型へ教授法の質的転換を図る大学物理教育イノベーション
27	基盤研究 (B)	中 島 伸 子	病気やケガに関する子どもの理解・表現と大人の対応に関する研究
28	基盤研究 (B)	鈴 木 恵	学びのプロセスと日本語書記史を統合する学習材・カリキュラムの開発と検証
29	若手研究 (A)	釜 本 健 司	日本の中等公民教育における政治的・社会的判断力育成の歴史的研究
25	基盤研究 (B)	麓 慎 一	帝政ロシアによる露領アメリカ経営と環太平洋における海洋秩序の変容について
27	基盤研究 (C)	伏 木 忠 義	調査不能バイアスの調整に有用な変数に関する研究
27	基盤研究 (C)	山 口 智 子	コメ離れに対応する海藻つなぎ米粉麺の製造と特性評価
27	基盤研究 (C)	藤 林 紀 枝	古海底火山を用いた理科教育・災害科学教育
27	基盤研究 (C)	石 垣 健 二	体育学独自の研究方法としての「間身体的アプローチ」の構想
27	基盤研究 (C)	山 崎 健	長距離ランニング中のエネルギー供給系とスキル系の連関モデルの検討
27	基盤研究 (C)	大 庭 昌 昭	グレーディング能力を基にした平泳ぎの泳動作分析
27	基盤研究 (C)	笠 卷 純 一	大学生の健康行動変容に環境要因はいかに影響するか：3か年の縦断的調査から
27	基盤研究 (C)	本 間 伸 輔	英語・日本語数量詞句の作用域決定を司る統語的・意味的要因に関する理論的研究
27	基盤研究 (C)	加 藤 茂 夫	Siriを利用した英語音読評価ソフトの開発と英語習熟度測定への活用可能性の探求
27	基盤研究 (C)	世 取 山 洋 介	福祉国家型教育財政構想の制度化の歴史的展開と現代立憲主義による正当化に関する研究
27	基盤研究 (C)	小 久 保 美 子	機能的磁気共鳴画像法による主体的な読書活動の学習効果に関する実証的研究
27	基盤研究 (C)	柴 田 透	公民・経済分野における理論的対立の歴史的分析及び教育方法の研究
27	基盤研究 (C)	張 間 忠 人	完全交叉のレフシェッツ性問題に関する研究
28	基盤研究 (C)	佐 藤 亮 一	レーダポラリメトリによる自然災害発生時の被災住宅群識別および緊急救助用陸路検出
28	基盤研究 (C)	岡 野 勉	国定算術教科書の改訂過程に関する研究：教育実践研究との関連を基本的観点として
28	基盤研究 (C)	松 井 賢 二	大学生のキャリア成熟の変容を考慮に入れた包括的キャリア支援プログラムの開発研究
28	基盤研究 (C)	長 谷 川 敬 三	等質および局所等質多様体上の複素幾何構造についての研究
28	基盤研究 (C)	高 清 水 康 博	リアス式海岸や海成段丘から津波堆積物を認定する手法の構築
25	基盤研究 (C)	杉 澤 武 俊	心理学研究における統計的検定手法の見直しと改善
26	基盤研究 (C)	有 川 宏 幸	合理的配慮の提供に活かす就学前後の支援情報の機能的翻訳に関する研究
29	基盤研究 (C)	興 治 文 子	科学筆記が呈する明治期教育改革の国際的関連 - 科学と科学教育の関係性に着目して
29	基盤研究 (C)	小林日出至郎	ホメロスの運動文化思想に関する研究
29	基盤研究 (C)	岡 田 祥 平	現代日本語に観察される書体の多様性に関する社会言語学的、音声学的研究
29	基盤研究 (C)	神 村 栄 一	児童・思春期に受けた認知行動療法についての成人青年を調査対象とした後ろ向き研究
29	基盤研究 (C)	佐 藤 哲 夫	ベアでの美術鑑賞による「他者性の対話」の研究
29	基盤研究 (C)	足 立 幸 子	エビデンスに基づいた読書の認知的・非認知的側面の評価手法の開発と評価ガイドの提案
29	基盤研究 (C)	入 山 満 恵 子	認知特性の偏りを包括した学童期英語指導の体系化に関する研究
29	基盤研究 (C)	鈴 木 賢 治	X線応力測定法の粗大粒および微小領域への拡張
28	挑戦的萌芽研究	土 佐 幸 子	探究的指導法を軸として高校物理授業の課題点を明らかにする4か国比較研究
28	挑戦的萌芽研究	麓 慎 一	水産業の国際的展開と地域社会の変容-世界と東アジアをつなぐ日本-
27	若手研究 (B)	小 野 映 介	弥生時代の沖積低地を対象としたジオアーケオロジー研究
27	若手研究 (B)	小 林 繁 子	近世的支配形成のダイナミクス-魔女迫害と近世国家
27	若手研究 (B)	一 柳 智 紀	小グループでの学習に関する教師の実践知の検討
27	若手研究 (B)	古 田 和 久	教育と職業の日本的特徴に関する実証的研究
28	若手研究 (B)	天 野 達 郎	運動トレーニングに伴う発汗機能の改善メカニズムの解明：神経伝達物質に着目して
28	若手研究 (B)	前 田 洋 介	コミュニティ・ガバナンスの制度と空間構造に関する日英比較研究
28	若手研究 (B)	田 中 誠 二	戦後復興期の衛生教育に関する実証的研究
28	若手研究 (B)	清 水 文 博	手書き文字の字形と学習者の主体性に関する研究-大正期から昭和初期を中心として
28	若手研究 (B)	平 尾 篤 利	放電環境制御によるマイクロ部品形状創成と高精細表面改質法に関する研究
29	若手研究 (B)	田 中 恒 彦	ベリネイタル・ロスによる心理的問題の実態調査と支援プログラムの開発

## 8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成29年度における寄附金の新規受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄附者	目的
牛山 幸彦	公益財団法人 日本卓球協会	卓球競技に関する研究助成
鎌田 正喜	鎌田 正喜	抗ガン剤の開発に関する研究助成
横山 知行	医療法人 崇徳会	「チーム医療に求められる医療心理職の資質およびその育成に関する研究」への助成

## 8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成29年度における新規受託研究および受託事業は下表のとおりである。

### ○ 受託研究

研究担当者	委託者	研究題目
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰後の転帰に関する研究
志賀 隆	新潟市	新潟市域の湖沼に生育する水生植物の遺伝的特徴と埋土種子集団の構成
志賀 隆	日光市	「シモツケコウホネ」保全調査研究
志賀 隆	学校法人 東邦大学	効果的な湿地モニタリング手法の開発
神村 栄一	独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター	ギャンブル障害の効果判定ツール作成についての研究
山口 智子	阿賀町	エゴマを用いた栄養機能性食品の開発、商品化ならびに生食用エゴマのハウス試験栽培
篠田 邦彦	公益財団法人 長岡市スポーツ協会	キッズアスリートチャレンジ事業

### ○ 受託事業

事業担当者	委託者	事業題目
向山 恭一	公益財団法人 新潟県国際交流協会	国際交流インストラクター養成事業
山口 智子	イモジェンヌ農商工連携協議会	イモジェンヌを利用した加工食品の開発及びアピール支援事業
英語科	文部科学省	小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業
村山 敏夫	新潟県	集落活性化調査研究業務

## 8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成29年度における新規共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
橋本 学	小柳建設株式会社	景観・環境を意識した浚渫船のデザイン研究
天野 達郎	森永乳業株式会社	乳ペプチドの体温調節・疲労軽減作用に関する研究

## (卷末資料)

## 平成29年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教員養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	41	231	166	53	49
		教育心理学専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	139	659	463	151	147
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
		美術教育専修					
	保健体育専修						
推 薦 入 学	40	58	58	36	36		
合 計	220	948	687	240	232		

## 平成29年度新潟大学大学院教育学研究科(専門職学位課程)入学者数

平成29年4月1日

### 一般入試, 現職教員入試

専攻	コース	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	備考
教育実践開発	教育実践コース	15人	16	16	14	12	現職教員7名 学部新卒生5名
	学校経営コース		4	4	4	4	現職教員4名
合計		15人	20	20	18	16	

平成30年3月卒業(修了)者の就職内定状況

(1) 教育学部

平成30年3月31日現在

	卒業者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教員養成課程	217	23	11	17	127	39	183	17	127	39	183	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
学習社会ネットワーク課程	46	3	3	10	2	28	40	10	2	27	39	100.0%	100.0%	96.4%	97.5%
生活科学課程	17	0	0	5	1	11	17	5	1	11	17	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
健康スポーツ科学課程	30	3	3	5	5	14	24	5	5	14	24	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
芸術環境創造課程	60	8	2	5	11	34	50	5	11	34	50	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
計	370	37	19	42	146	126	314	42	146	125	313	100.0%	100.0%	99.2%	99.7%

(2) 大学院教育学研究科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育専攻	6	0	1	2	2	1	5	2	2	1	5	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
教科教育専攻	25	0	6	1	10	8	19	1	10	7	18	100.0%	100.0%	87.5%	94.7%
教育実践開発専攻 (教職大学院)	17	0	0	0	17	0	17	0	17	0	17	-	100.0%	-	100.0%
計	48	0	7	3	29	9	41	3	29	8	40	100.0%	100.0%	88.9%	97.6%

(3) 養護教諭特別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率 (%)					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
養護教諭特別科	38	0	1	3	23	11	37	3	23	11	37	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注)平成29年9月卒業(修了)者を含む

## 教育学部附属学校生徒数

29. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	收容定員	現員
幼稚園	3歳児学級	1	20	20	15
	4歳児学級	1	35	35	16
	5歳児学級	1	35	35	17
新潟小学校		12	35	420	409
	複式学級	3	16	48	47
長岡小学校		12	35	420	368
新潟中学校		9	40	360	353
長岡中学校		9	40	360	356
特別支援学校	小学部 (複式学級)	3	6	18	17
	中学部	3	6	18	18
	高等部	3	8	24	30
合 計		57		1,758	1,646

複式学級は外数